

島根原子力発電所第2号機 審査資料	
資料番号	NS2-添 2-011-09
提出年月日	2023年2月14日

VI-2-10-2-5 1号機取水槽の地震応答計算書

S2 補 VI-2-10-2-5 R0

2023年2月

中国電力株式会社

## 目次

1. 概要	1
2. 基本方針	2
2.1 位置	2
2.2 構造概要	3
2.3 解析方針	5
2.4 適用規格・基準等	7
3. 解析方法	8
3.1 評価対象断面	8
3.2 解析方法	10
3.2.1 構造部材	10
3.2.2 地盤	13
3.2.3 減衰定数	14
3.2.4 地震応答解析の解析ケースの選定	15
3.3 荷重及び荷重の組合せ	18
3.3.1 耐震評価上考慮する状態	18
3.3.2 荷重	18
3.3.3 荷重の組合せ	19
3.4 入力地震動	20
3.5 解析モデル及び諸元	35
3.5.1 解析モデル	35
3.5.2 使用材料及び材料の物性値	37
3.5.3 地盤の物性値	37
3.5.4 地下水位	38
4. 解析結果	39
4.1 南北断面の解析結果	39

## 1. 概要

本資料は、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に基づき実施する1号機取水槽の地震応答解析について説明するものである。

本地震応答解析は、1号機取水槽北側壁、1号機取水槽ピット部及び1号機取水槽漸拡ダクト部底版が耐震性に関する技術基準へ適合することを確認するために用いる応答値を抽出するものである。その際、耐震評価に用いる応答値は、この地震応答解析により構造物に発生する変形、断面力及び基礎地盤に発生する接地圧とする。また、1号機取水槽流路縮小工が耐震性に関する技術基準へ適合することを確認するために用いる応答値の抽出を行う。

2. 基本方針

2.1 位置

1号機取水槽の位置図を図2-1に示す。

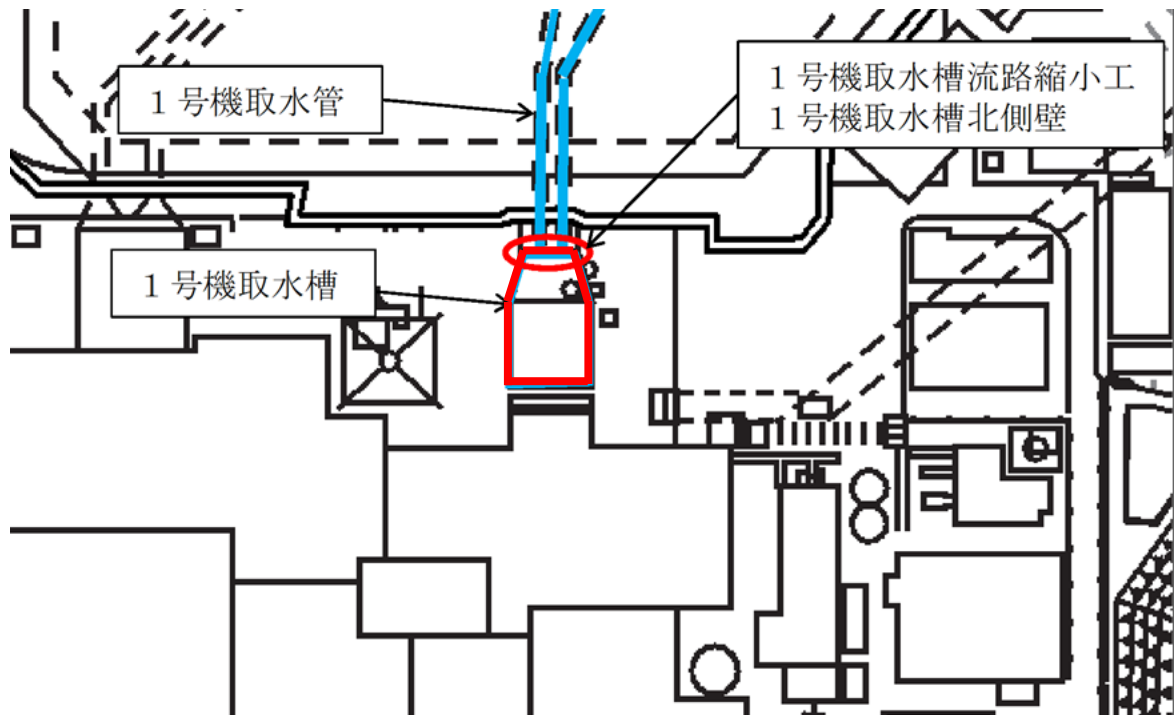


図2-1 1号機取水槽 位置図

## 2.2 構造概要

1号機取水槽の平面図を図2-2に、断面図を図2-3に示す。

1号機取水槽のうち北側壁は、1号機取水槽流路縮小工を間接支持する鉄筋コンクリートの地中構造物であり、十分な支持性能を有するC<sub>M</sub>級以上の岩盤に支持される。

1号機取水槽は、地下2階構造となっており、上部は除じん機エリア、海水ポンプエリア、ストレーナエリアの3エリアに分かれている。下部は水路となっており、除じん機エリアの下部は6連のボックスカルバート構造、海水ポンプエリアの下部は3連のボックスカルバート構造となっている。

なお、1号機取水槽ピット部下部に閉塞版を設置し、1号機取水槽ピット部内をコンクリートで充填する。1号機取水槽ピット部（閉塞版）及び1号機取水槽漸拡ダクト部底版の範囲を図2-4に示す。以降、1号機取水槽ピット部（閉塞版）及び1号機取水槽漸拡ダクト部底版を併せて中床版とする。

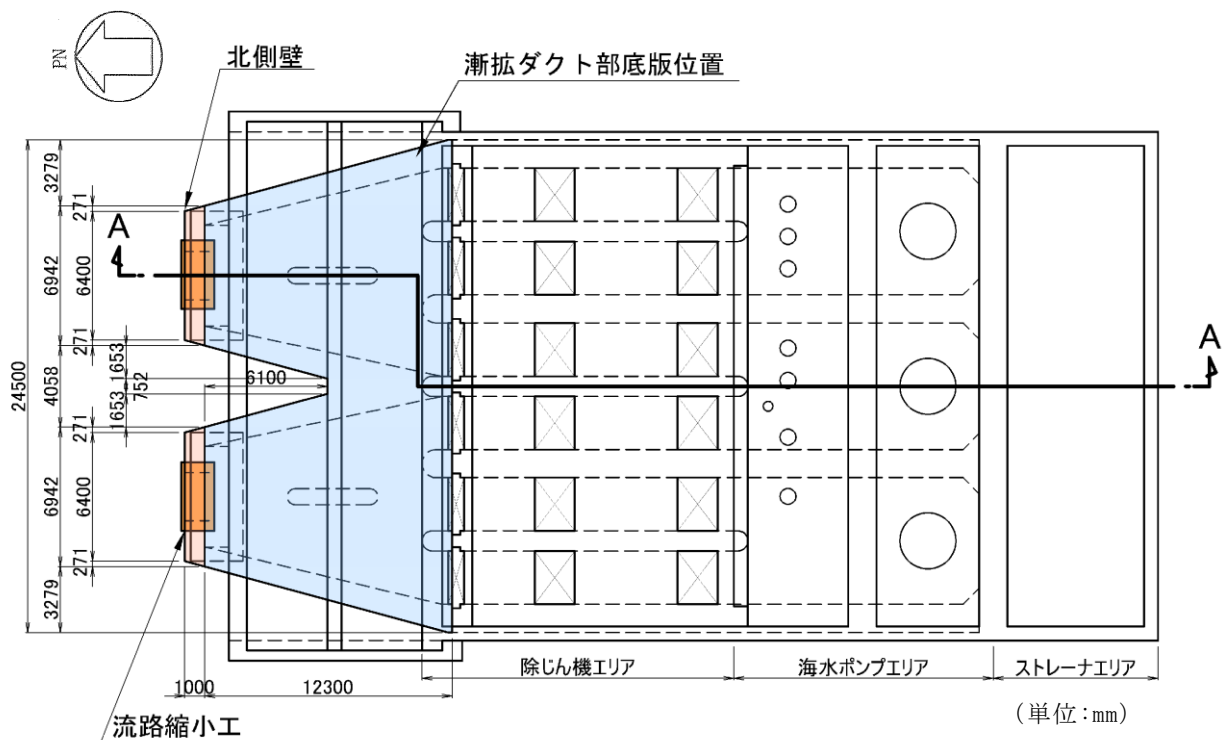


図2-2 1号機取水槽 平面図

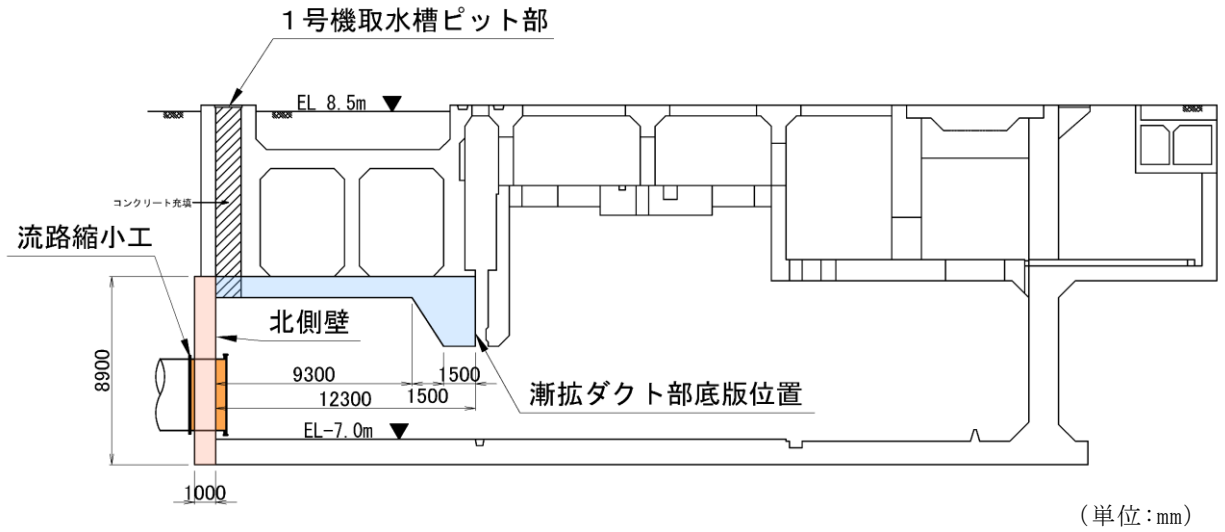


図 2-3 1号機取水槽 断面図 (A-A 断面)

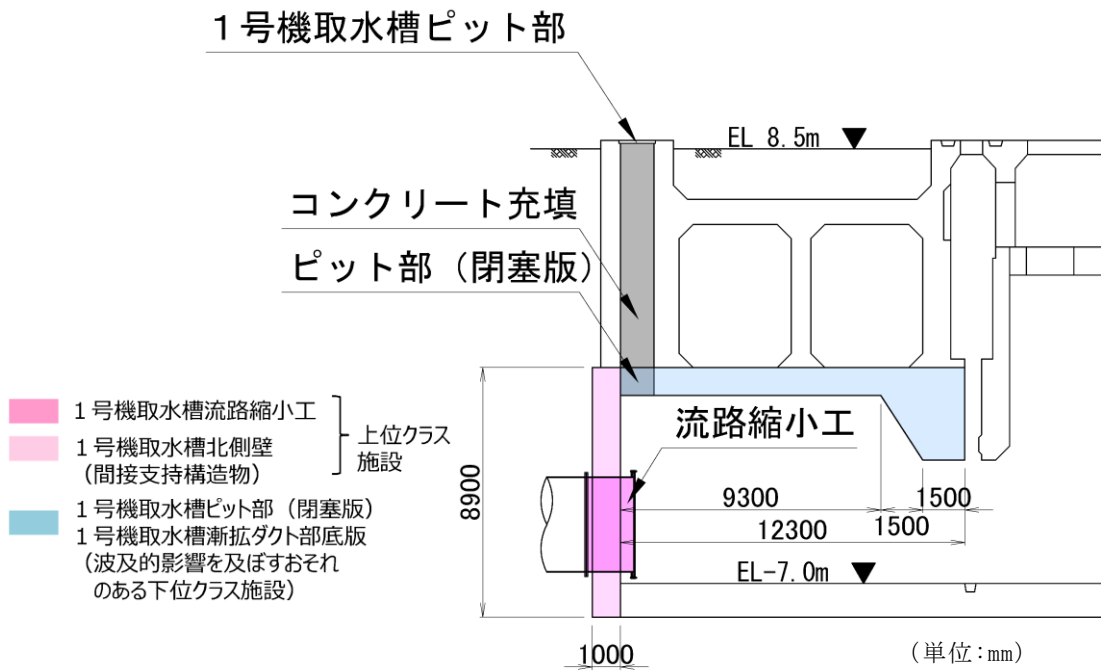


図 2-4 1号機取水槽ピット部及び1号機取水槽漸拡ダクト部底版の範囲

### 2.3 解析方針

1号機取水槽は、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に基づき、基準地震動 $S_s$ 及び弾性設計用地震動 $S_d-D$ に対して地震応答解析を実施する。

図2-5に1号機取水槽の地震応答解析フローを示す。

地震応答解析は、「2. 基本方針」に基づき、「3.1 評価対象断面」に示す断面において、「3.2 解析方法」に示す水平地震動と鉛直地震動の同時加振による時刻歴応答解析により行うこととし、地盤物性のばらつきを適切に考慮する。

時刻歴応答解析は、「3.3 荷重及び荷重の組合せ」及び「3.5 解析モデル及び諸元」に示す条件に基づき、「3.4 入力地震動」により設定する入力地震動を用いて実施する。

地震応答解析による応答加速度は、1号機取水槽流路縮小工の設計震度設定に用い、変形、断面力及び基礎地盤の接地圧は、1号機取水槽北側壁、中床版の耐震評価に用いる。

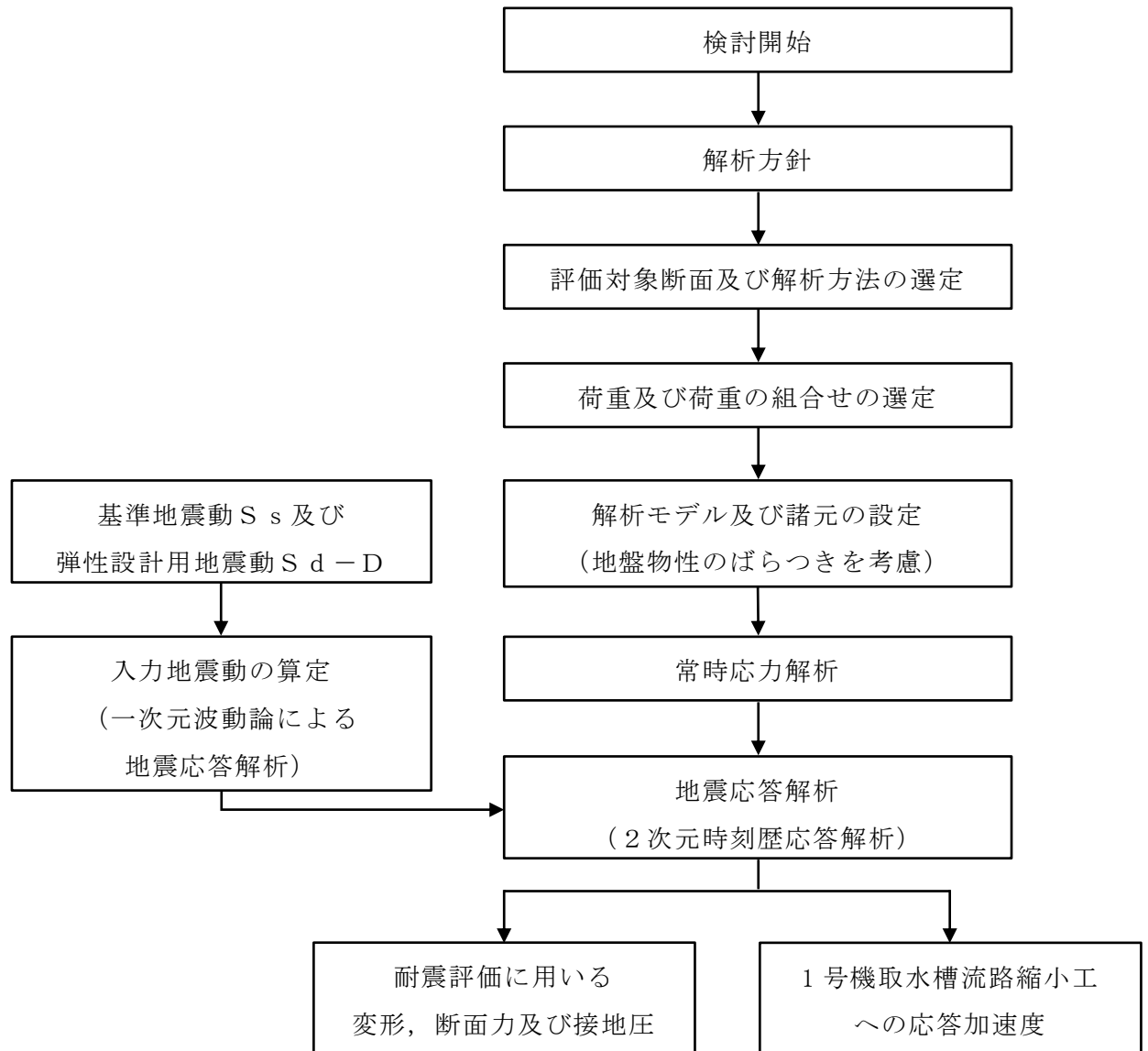


図 2-5 1号機取水槽 地震応答解析フロー



#### 2.4 適用規格・基準等

適用する規格・基準等を以下に示す。

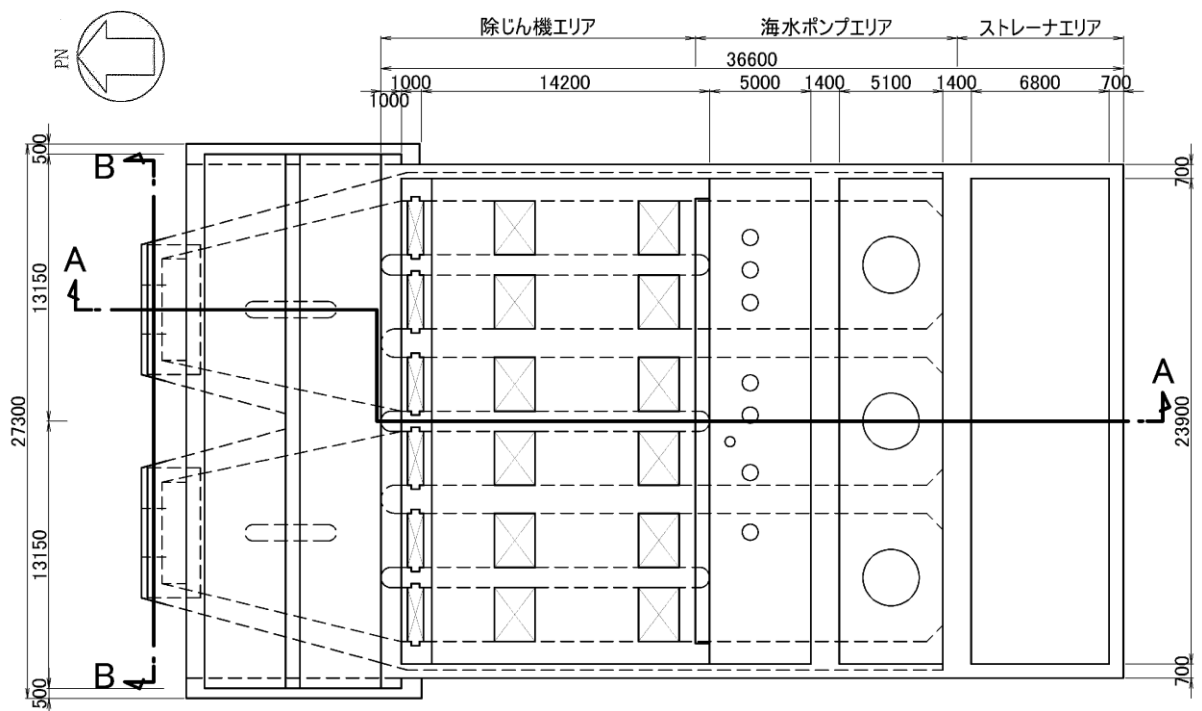
- ・コンクリート標準示方書[構造性能照査編]（土木学会，2002年制定）
- ・原子力発電所屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針・マニュアル（土木学会，2005年）
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1987（日本電気協会）
- ・松江市建築基準法施行細則（平成17年3月31日松江市規則第234号）
- ・道路橋示方書・同解説 V耐震設計編（日本道路協会，2002年）
- ・道路橋示方書・同解説 V耐震設計編（日本道路協会，2012年）

### 3. 解析方法

#### 3.1 評価対象断面

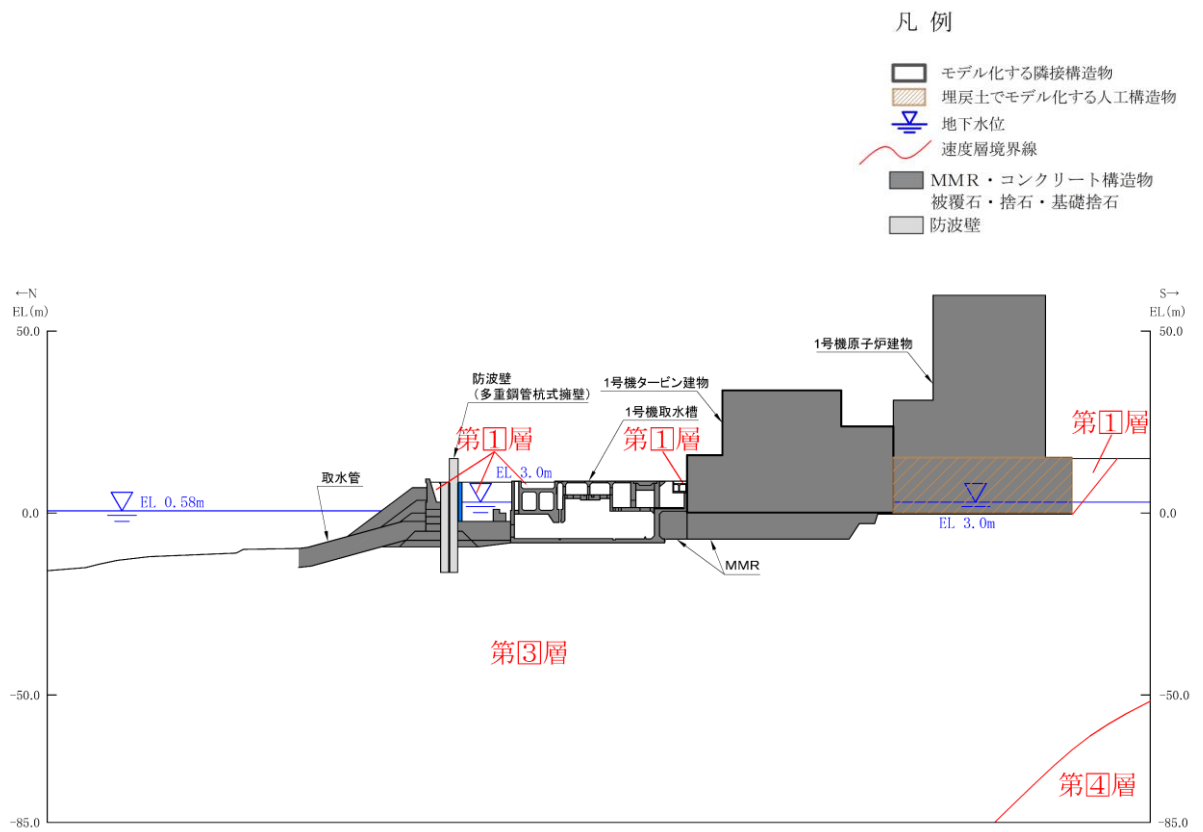
1号機取水槽の評価対象断面位置図を図3-1に示す。評価対象断面は、評価対象の1号機取水槽流路縮小工、1号機取水槽北側壁、1号機取水槽ピット部及び1号機取水槽漸拡ダクト部底版を通る南北断面とする。

評価対象地質断面図を図3-2に示す。



(単位:mm)

図3-1 1号機取水槽 評価対象断面位置図



注：第1層については解析モデルでは埋戻土の物性を使用

図 3-2 1号機取水槽 評価対象地質断面図（南北断面）

### 3.2 解析方法

1号機取水槽の地震応答解析は、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」のうち、「2.3 屋外重要土木構造物」に示す解析方法及び解析モデルを踏まえて実施する。

地震応答解析は、構造物と地盤の相互作用を考慮できる2次元有限要素法解析を用いて、基準地震動 $S_s$ 及び弾性設計用地震動 $S_d-D$ に基づき設定した水平地震動と鉛直地震動の同時加振による逐次時間積分の時刻歴応答解析により行うこととする。1号機取水槽周辺には、地下水位以深の液状化対象層が存在し、施設が液状化対象層と接することから、解析方法は「有効応力解析」とする。また、液状化しない場合の影響を確認するため、全応力解析も実施する。

構造部材については、北側壁及び1号機取水槽ピット部は、鉄筋コンクリートの $M-\phi$ 関係を適切にモデル化し、地盤については地盤のひずみ依存性を適切に考慮できるようにモデル化する。

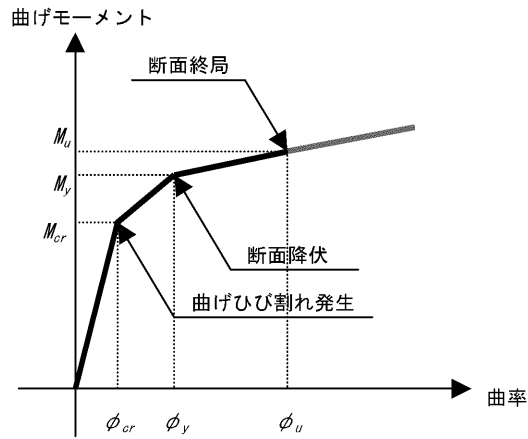
地震応答解析については、有効応力解析及び全応力解析において解析コード「FLIP」を使用する。なお、解析コードの検証及び妥当性確認等の概要については、VI-5「計算機プログラム(解析コード)の概要」に示す。

#### 3.2.1 構造部材

1号機取水槽流路縮小工を間接支持する北側壁及び波及的影響を及ぼす可能なある1号機取水槽ピット部及び1号機取水槽漸拡ダクト部底版等の鉄筋コンクリート部材は、非線形はり要素でモデル化する。また、面内壁及びピット部コンクリート充填部については、平面応力要素でモデル化する。

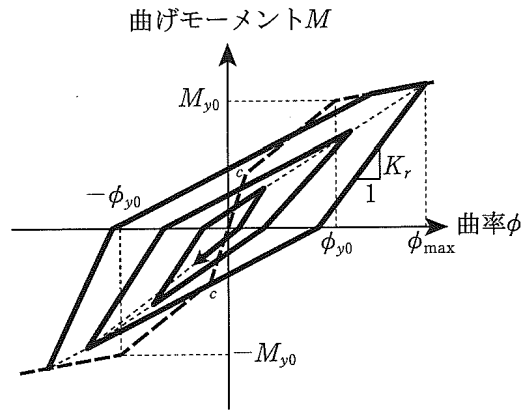
なお、非線形はり要素については、図3-3に示す $M-\phi$ 関係のトリリニアモデルとする。履歴特性は、図3-4に示すとおり修正武田モデルを適用し、図3-5に示すコンクリートの応力-ひずみ関係を考慮する。

また、図3-6に鉄筋の応力-ひずみ関係を示す。



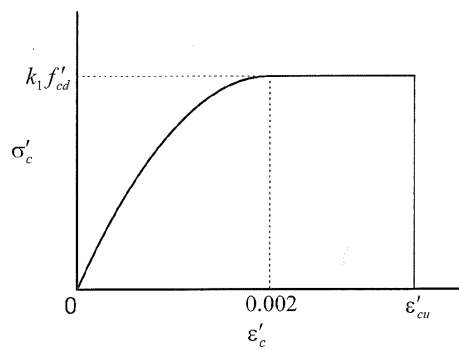
(原子力発電所屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針・マニュアル (土木学会, 2005年) より引用)

図 3-3 鉄筋コンクリート部材のM-φ関係



(道路橋示方書・同解説 V耐震設計編 (日本道路協会, 2002年) より引用)

図 3-4 鉄筋コンクリート部材の履歴特性 (修正武田モデル)



$$k_1 = 1 - 0.003 f'_{ck} \leq 0.85$$

$$\epsilon'_{cu} = \frac{155 - f'_{ck}}{30000} \quad 0.0025 \leq \epsilon'_{cu} \leq 0.0035$$

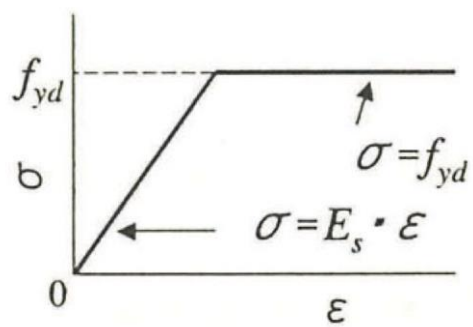
ここで,  $f'_{ck}$  の単位は  $\text{N}/\text{mm}^2$

曲線部の応力ひずみ式

$$\sigma'_c = k_1 f'_{cd} \times \frac{\epsilon'_c}{0.002} \times \left( 2 - \frac{\epsilon'_c}{0.002} \right)$$

(コンクリート標準示方書[構造性能照査編] (土木学会, 2002年制定) より引用)

図 3-5 構造部材の非線形特性 (コンクリートの応力-ひずみ関係)



(コンクリート標準示方書[構造性能照査編] (土木学会, 2002 年制定) より引用)

図 3-6 構造部材の非線形特性 (鉄筋の応力-ひずみ関係)

### 3.2.2 地盤

埋戻土及び岩盤の平均値を用いて、地震応答解析を実施する。

表 3-1 に示す解析ケースを設定する。

表 3-1 解析ケース (A-A 断面)

解析ケース	解析手法	地盤物性	
		埋戻土 ( $G_0$ : 初期せん断 弾性係数)	岩盤 ( $G_d$ : 動せん断 弾性係数)
ケース① (基本ケース)	有効応力解析	平均値	平均値
ケース②	有効応力解析	平均値 + 1 $\sigma$	平均値
ケース③	有効応力解析	平均値 - 1 $\sigma$	平均値
ケース④	全応力解析	平均値	平均値
ケース⑤	全応力解析	平均値 + 1 $\sigma$	平均値

### 3.2.3 減衰定数

構造部材の減衰定数は、粘性減衰及び履歴減衰で考慮する。

Rayleigh 減衰を考慮することとし、剛性比例型減衰 ( $\alpha = 0$ ,  $\beta = 0.002$ ) とする。  
なお、係数  $\beta$  の設定については、「FLIP 研究会 14 年間の検討成果のまとめ「理論編」」による。



### 3.2.4 地震応答解析の解析ケースの選定

#### (1) 1号機取水槽流路縮小工に対する応答加速度抽出

1号機取水槽流路縮小工に対する応答加速度抽出においては、基準地震動  $S_s$  全波（6波）及びこれらに位相反転を考慮した地震動（6波）を加えた全12波に対し、解析ケース①（基本ケース）を実施する。

また、津波に伴う荷重と余震に伴う荷重作用時（以下「重畳時」という。）の強度計算のため弾性設計用地震動  $S_d - D$  に対し、解析ケース①（基本ケース）を実施する。

1号機取水槽流路縮小工に対する応答加速度抽出における解析ケースを表3-2に示す。

表3-2 応答加速度抽出における地震応答解析の解析ケース

解析ケース		ケース①	
		基本ケース	
地盤物性		平均値	
地震動 (位相)	$S_s - D$	++*	○
		-+*	○
		+ - *	○
		--*	○
	$S_s - F 1$	++*	○
	$S_s - F 2$	++*	○
	$S_s - N 1$	++*	○
		-+*	○
	$S_s - N 2 (NS)$	++*	○
		-+*	○
	$S_s - N 2 (EW)$	++*	○
		-+*	○
$S_d - D$	++*	○	

注記\*：地震動の位相について、++の左側は水平動、右側は鉛直動を表し、「-」は位相を反転させたケースを示す。

(2) 北側壁及び中床版の耐震評価

北側壁及び中床版の耐震評価においては、基準地震動  $S_s$  全波（6波）及びこれらに位相反転を考慮した地震動（6波）を加えた全12波に対し、解析ケース①（基本ケース）を実施する。

基本ケースにおいて、曲げ・軸力系の破壊、せん断破壊及び地盤の支持力照査の照査項目ごとに照査値が0.5を超える照査項目に対して、最も厳しい地震動を用いて、表3-4に示す解析ケース②～⑤を実施する。すべての照査項目の照査値がいずれも0.5以下の場合は、照査値が最も厳しくなる地震動を用いて、解析ケース②～⑤を実施する。

耐震評価における解析ケースを表3-3に示す。

表 3-3 耐震評価における解析ケース

解析ケース	ケース①	ケース②	ケース③	ケース④	ケース⑤
	基本 ケース	地盤物性のばらつき (+1σ) を考慮し た解析ケース	地盤物性のばらつき (-1σ) を考慮し た解析ケース	非液状化の条件を仮 定した解析ケース	地盤物性のばらつき (+1σ) を考慮し て非液状化の条件を 仮定した解析ケース
	平均値	平均値 + 1σ	平均値 - 1σ	平均値	平均値 + 1σ
地盤物性	++*				
	-+*				
S s - D	+*				
	+-*				
	--*				
S s - F 1	++*				
S s - F 2	++*				
S s - N 1	++*				
	-+*				
S s - N 2	++*				
(NS)	-+*				
S s - N 2	++*				
(EW)	-+*				

基準地震動 S s (6 波) に位相反転を考慮した地震動 (6 波) を加えた全 12 波  
に対し、ケース① (基本ケース) を実施し、曲げ・軸力系の破壊、せん断破壊  
及び基礎地盤の支持力照査の各照査項目ごとに照査値が 0.5 を超える照査項目  
に対して、最も厳しい (許容限界に対する裕度が最も小さい) 地震動を用いて  
ケース②～⑤を実施する。  
すべての照査項目の照査値がいずれも 0.5 以下の場合、照査値が最も厳しく  
なる地震動を用いてケース②～⑤を実施する。

注記\* : 地震動の位相について、++の左側は水平動、右側は鉛直動を表し、「-」は位相を反転させたケースを示す。

### 3.3 荷重及び荷重の組合せ

荷重及び荷重の組合せは，VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に基づき設定する。

#### 3.3.1 耐震評価上考慮する状態

1号機取水槽の地震応答解析において，地震以外に考慮する状態を以下に示す。

##### (1) 運転時の状態

発電用原子炉施設が運転状態にあり，通常の条件下におかれている状態。ただし，運転時の異常な過渡変化時の影響を受けないことから考慮しない。

##### (2) 設計基準事故時の状態

設計基準事故時の影響を受けないことから考慮しない。

##### (3) 設計用自然条件

積雪を考慮する。埋設構造物であるため風の影響は考慮しない。

##### (4) 重大事故等時の状態

重大事故等時の影響を受けないことから考慮しない。

#### 3.3.2 荷重

1号機取水槽の地震応答解析において，考慮する荷重を以下に示す。

##### (1) 固定荷重(G)

固定荷重として，躯体自重，機器・配管荷重及び流路縮小工荷重を考慮する。

##### (2) 積載荷重(P)

積載荷重として，水圧，土圧及び積雪荷重 $P_s$ を考慮する。

##### (3) 積雪荷重( $P_s$ )

積雪荷重として，発電所敷地に最も近い気象官署である松江地方気象台で観測された観測史上1位の月最深積雪100cmに平均的な積雪荷重を与えるための係数0.35を考慮し35.0cmとする。積雪荷重については，松江市建築基準法施行細則により，積雪量1cmごとに $20\text{N/m}^2$ の積雪荷重が作用することを考慮し設定する。

##### (4) 風荷重( $P_k$ )

風荷重については，設計基準風速を $30\text{m/s}$ とし，設計基準に基づき算定する。

##### (5) 地震荷重( $S_s$ )

基準地震動 $S_s$ による荷重を考慮する。

##### (6) 余震荷重( $S_d$ )

弾性設計用地震動 $S_d-D$ による荷重を考慮する。

### 3.3.3 荷重の組合せ

荷重の組合せを表 3-4 に示す。

表 3-4 荷重の組合せ

外力の状態	荷重の組合せ
地震時 ( $S_s$ )	$G + P + S_s$
地震時 ( $S_s$ ) * <sup>1</sup>	$G + P_s + P_k + S_s$
余震時 ( $S_d$ ) * <sup>2</sup>	$G + P_s + P_k + S_d$

注記\*1：1号機取水槽流路縮小工の地震時の強度計算に用いる。

\*2：1号機取水槽流路縮小工の重畳時の強度計算に用いる。

G：固定荷重

P：積載荷重

$P_s$ ：積雪荷重

$P_k$ ：風荷重

$S_s$ ：地震荷重(基準地震動  $S_s$ )

$S_d$ ：余震荷重(基準地震動  $S_d - D$ )

### 3.4 入力地震動

入力地震動は、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」のうち「2.3 屋外重要土木構造物」に示す入力地震動の設定方針を踏まえて設定する。

地震応答解析に用いる入力地震動は、解放基盤表面で定義される基準地震動  $S_s$  及び弾性設計用地震動  $S_d-D$  を一次元波動論により地震応答解析モデル下端位置で評価したものをを用いる。なお、入力地震動の設定に用いる地下構造モデルは、VI-2-1-3「地盤の支持性能に係る基本方針」のうち「7.1 入力地震動の設定に用いる地下構造モデル」を用いる。

図3-7に入力地震動算定の概念図を、図3-8～図3-21に入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトルを示す。入力地震動の算定には、解析コード「SHAKE」及び解析コード「microSHAKE」を使用する。解析コードの検証及び妥当性確認の概要については、VI-5「計算機プログラム(解析コード)の概要」に示す。

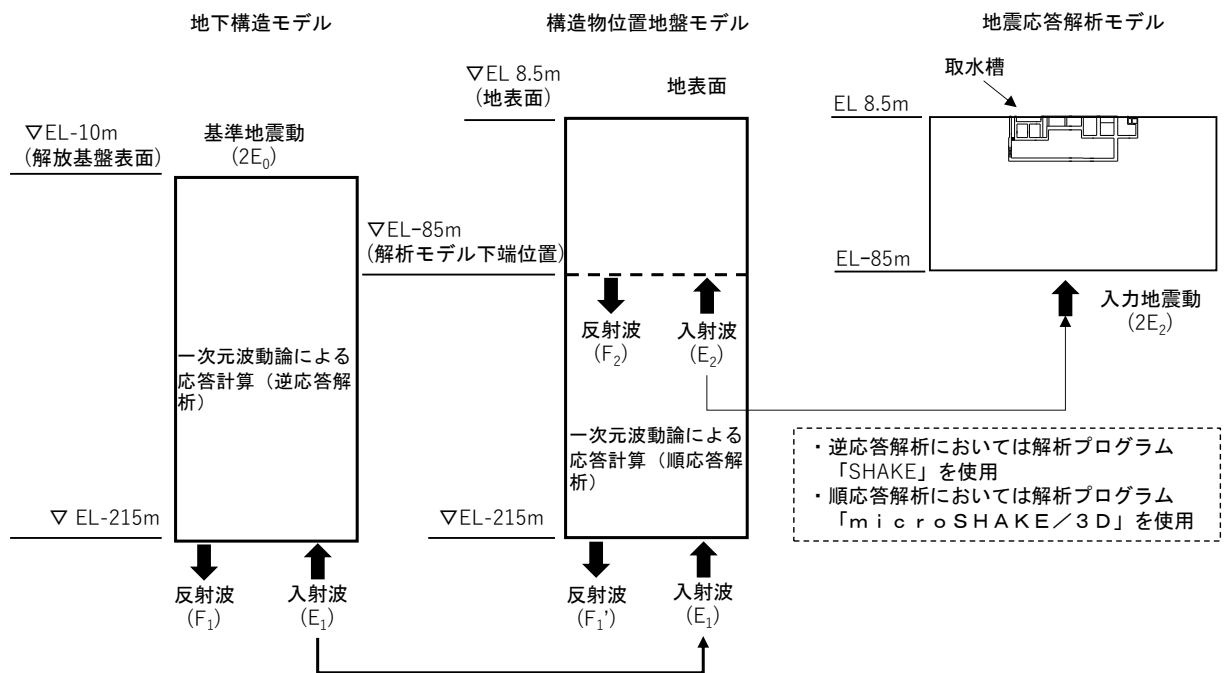
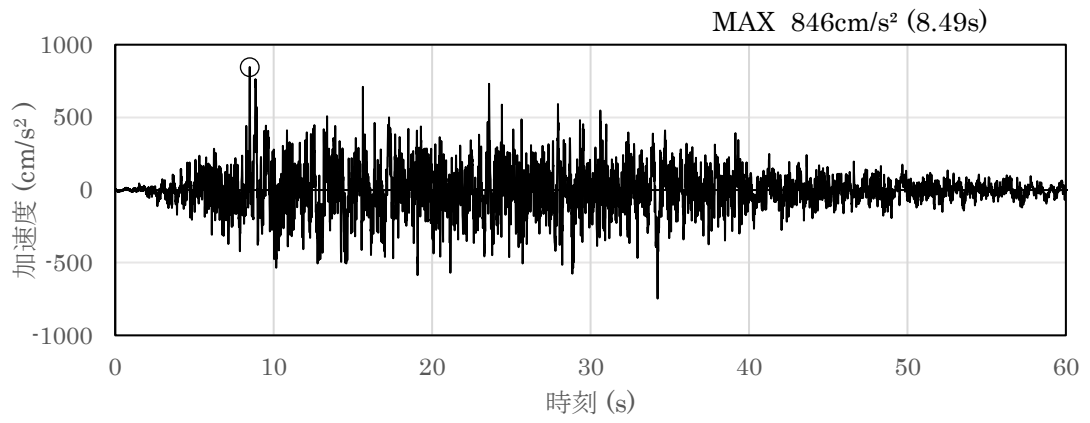
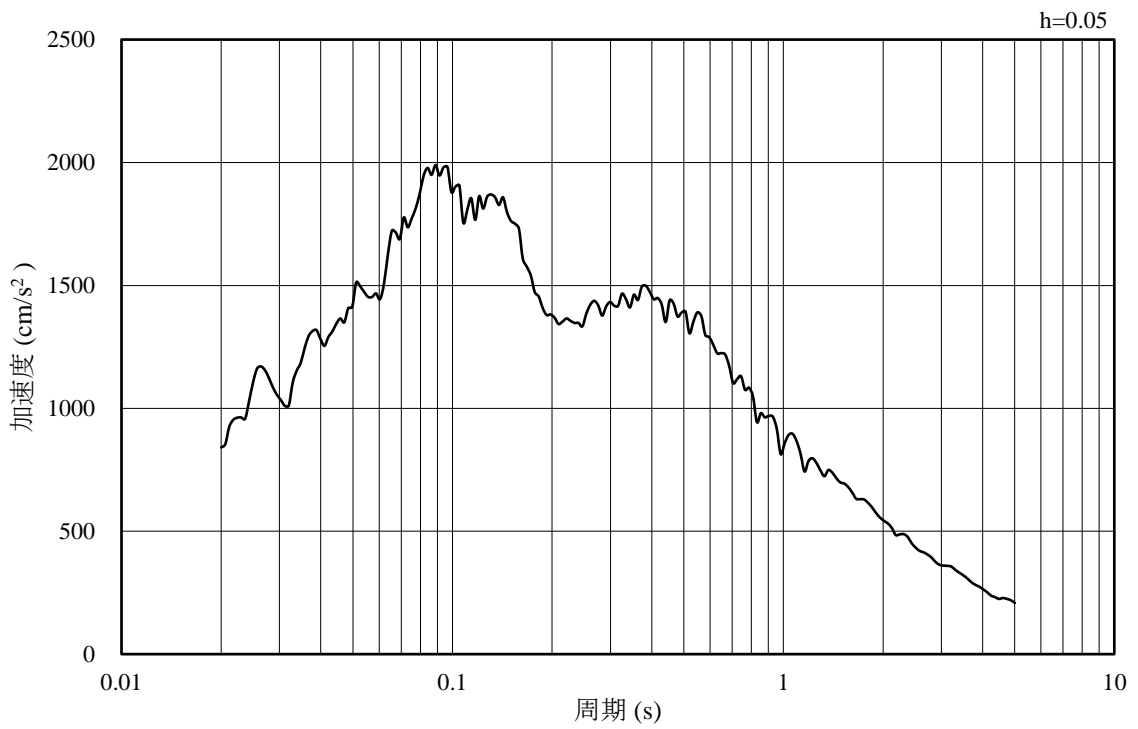


図3-7 入力地震動算定の概念図

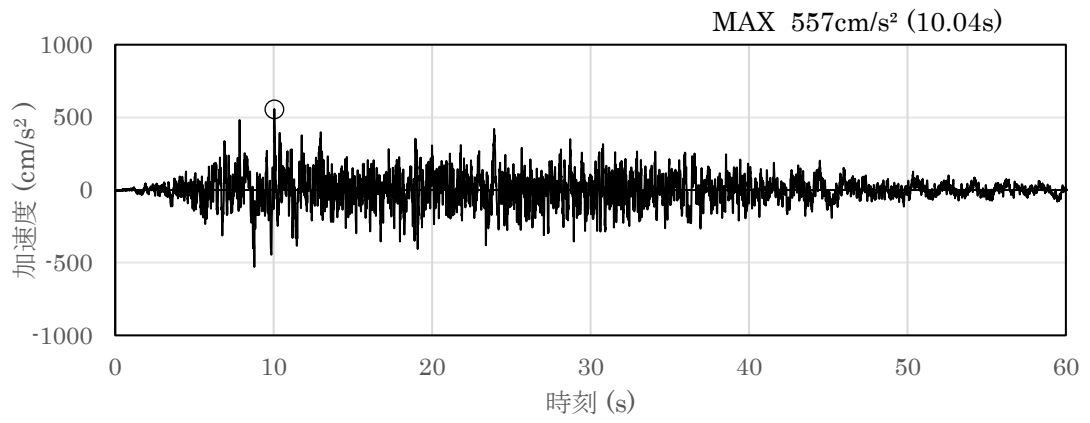


(a) 加速度時刻歴波形

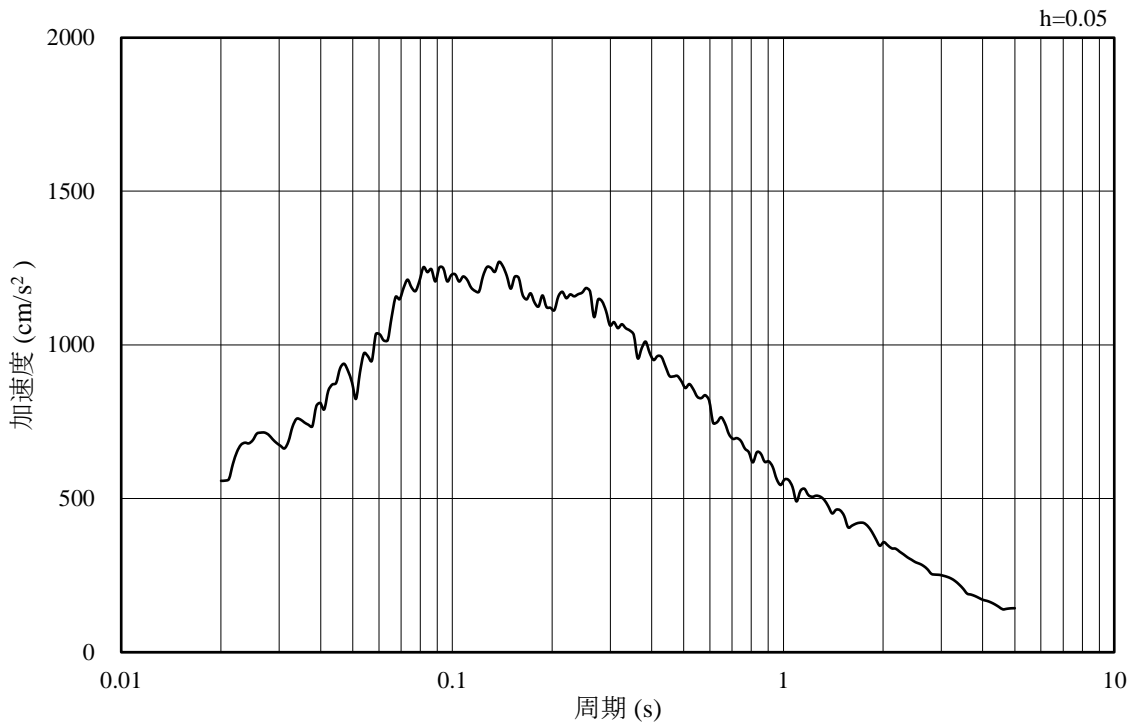


(b) 加速度応答スペクトル

図 3-8 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分：S s - D)



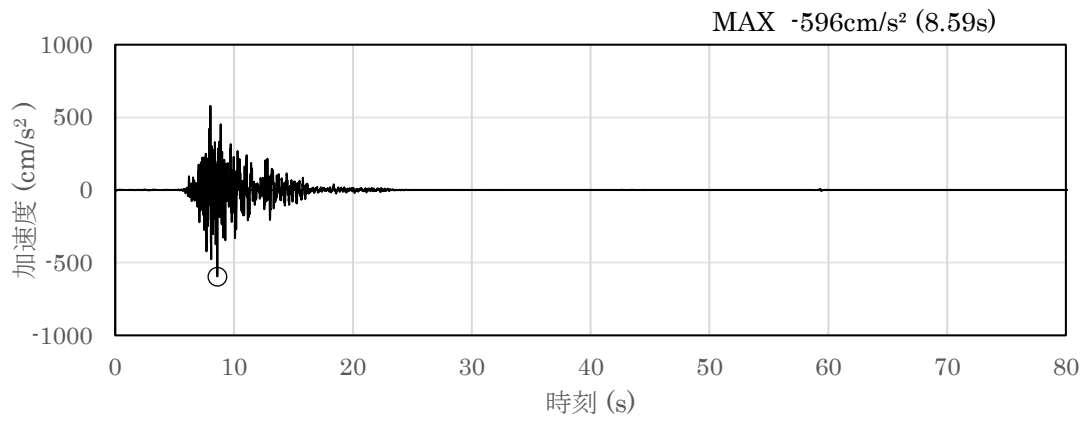
(a) 加速度時刻歴波形



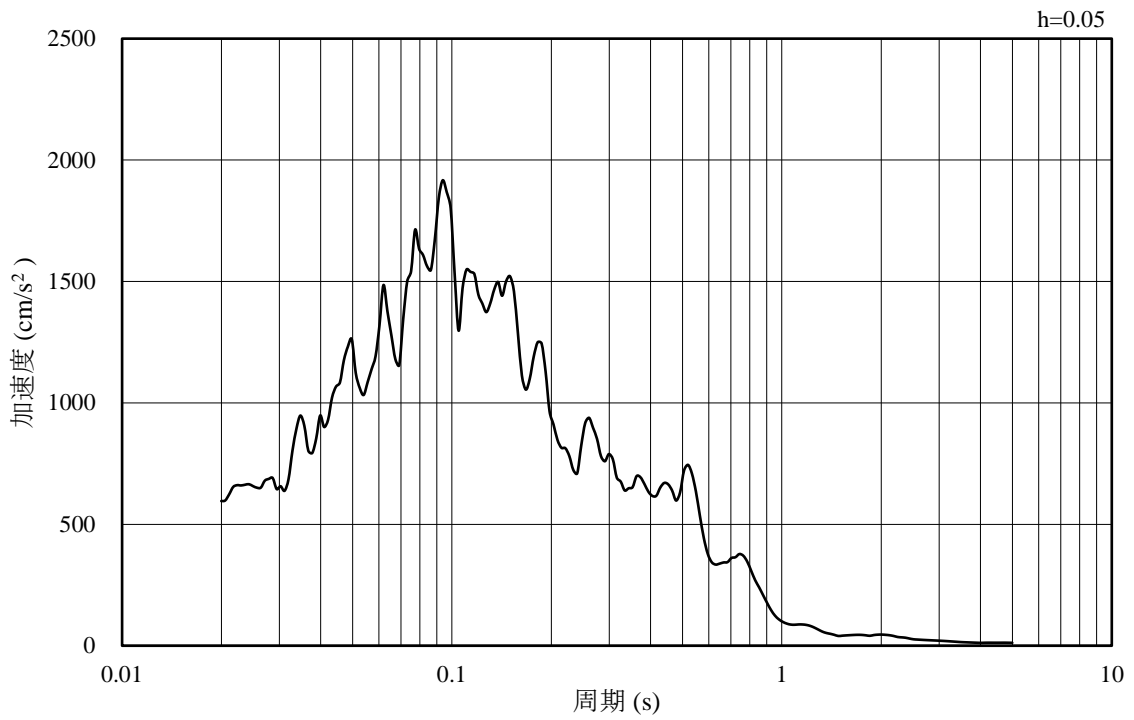
(b) 加速度応答スペクトル

図 3-9 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S s - D)



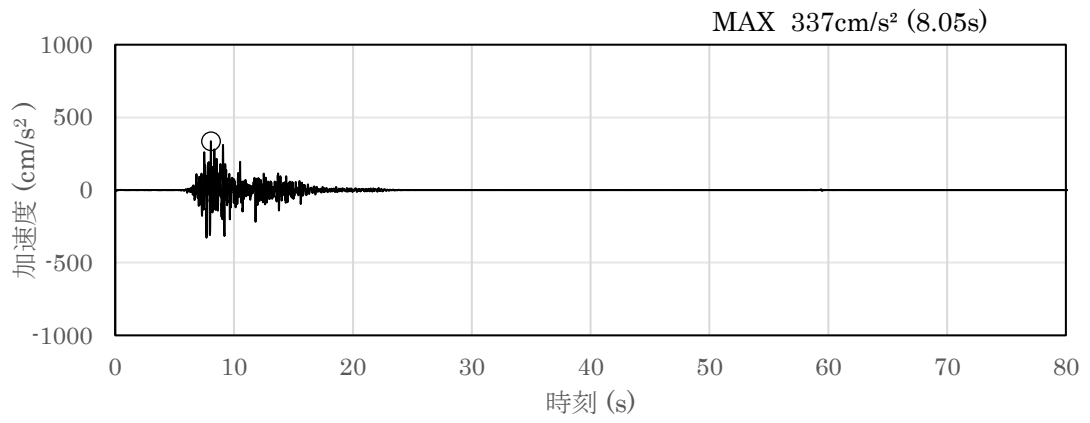


(a) 加速度時刻歴波形

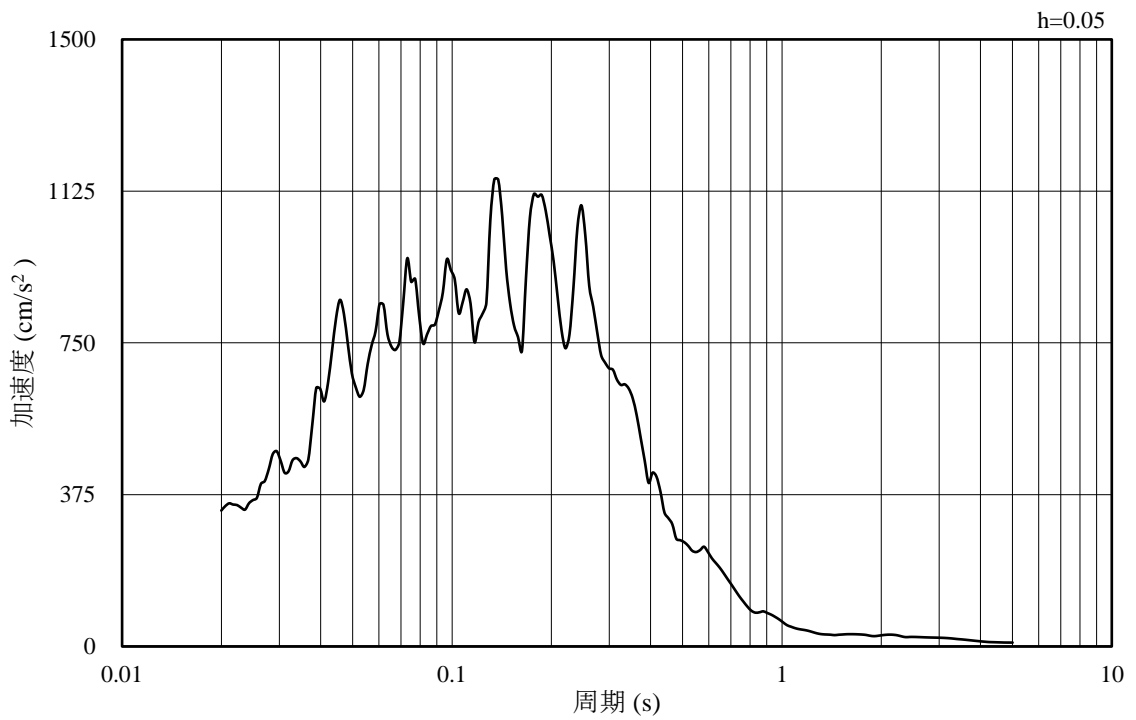


(b) 加速度応答スペクトル

図 3-10 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分：S s - F 1)

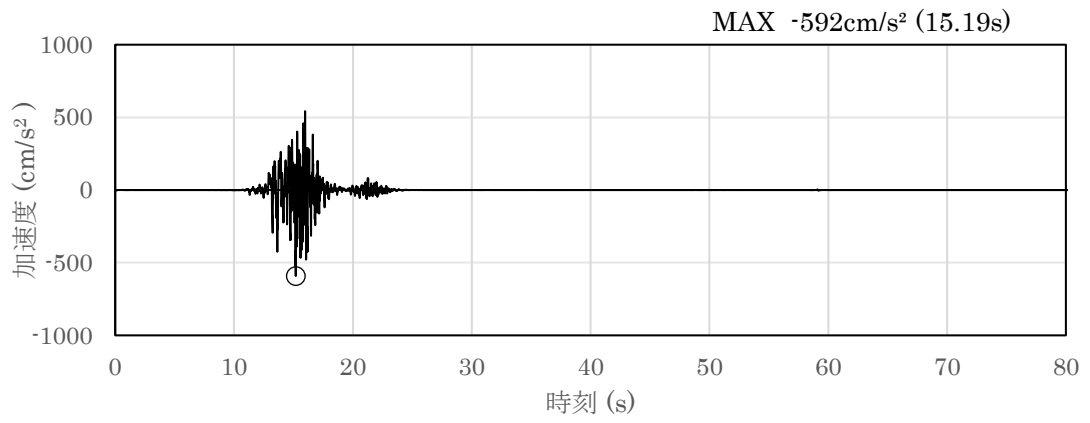


(a) 加速度時刻歴波形

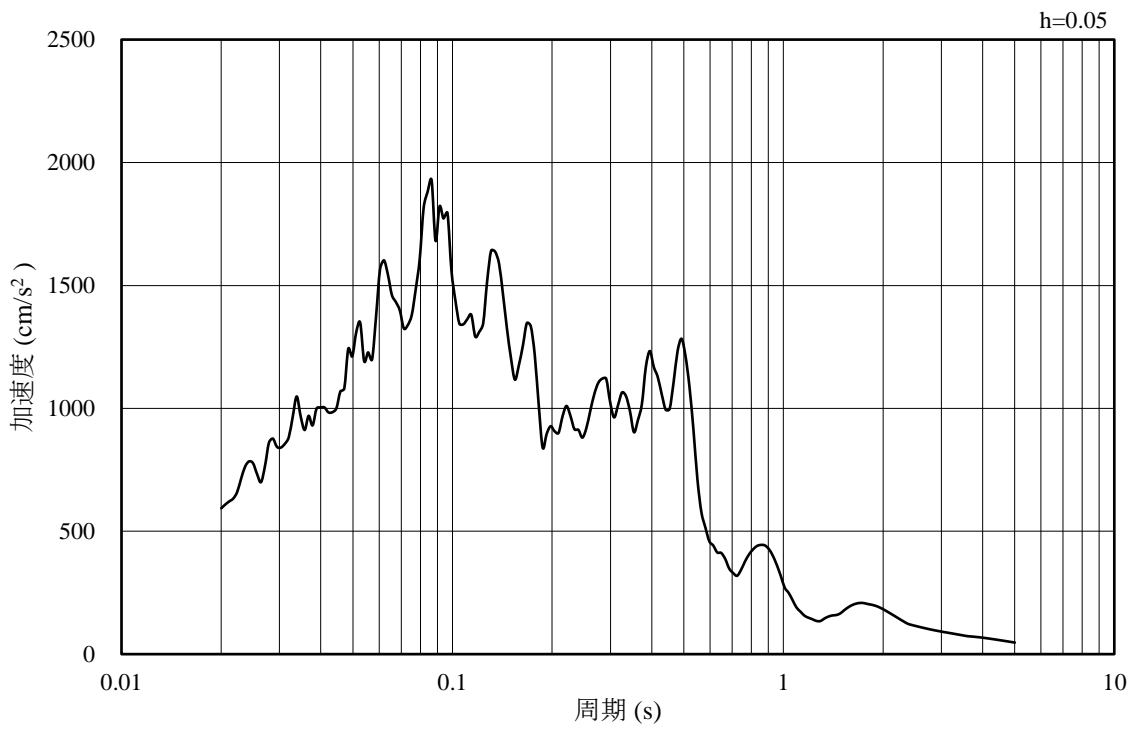


(b) 加速度応答スペクトル

図 3-11 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S s - F 1)

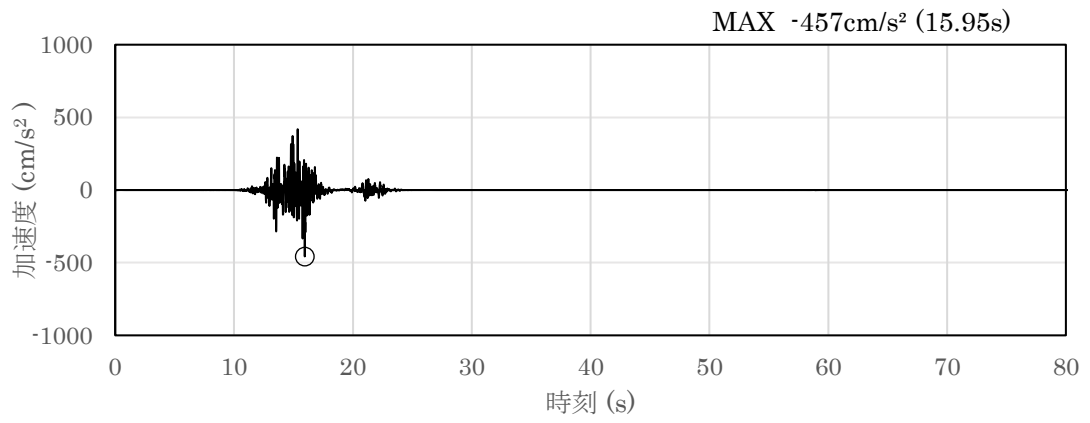


(a) 加速度時刻歴波形

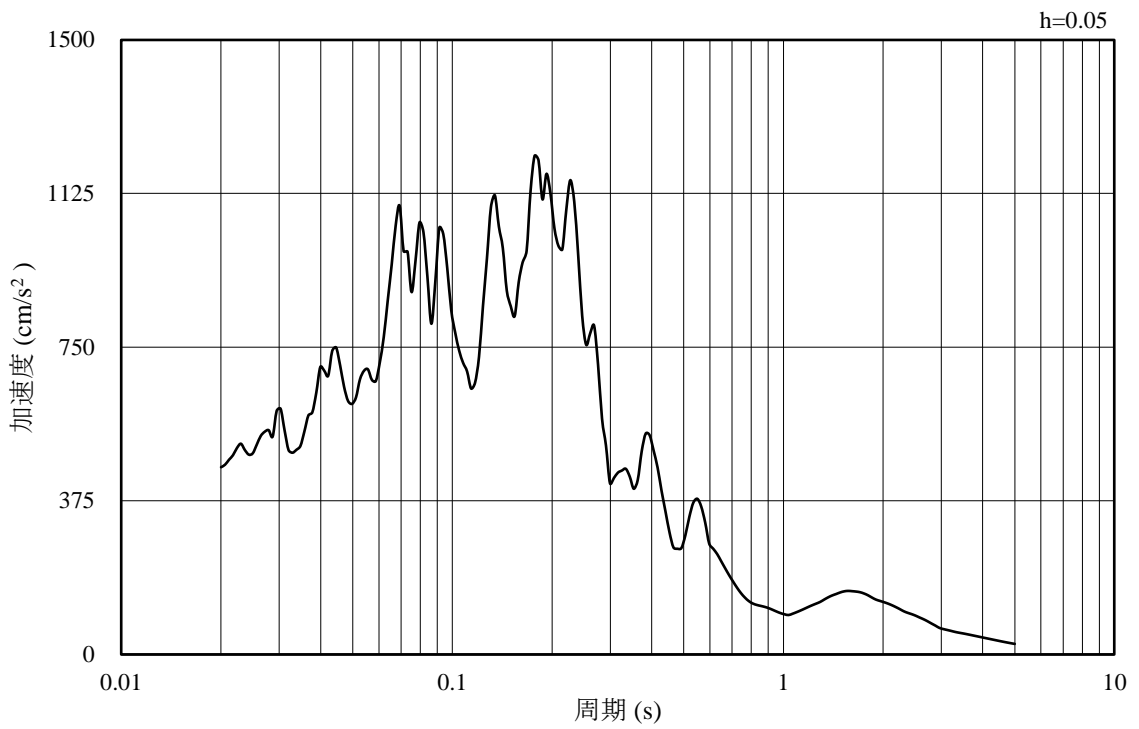


(b) 加速度応答スペクトル

図 3-12 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分 : S s - F 2)

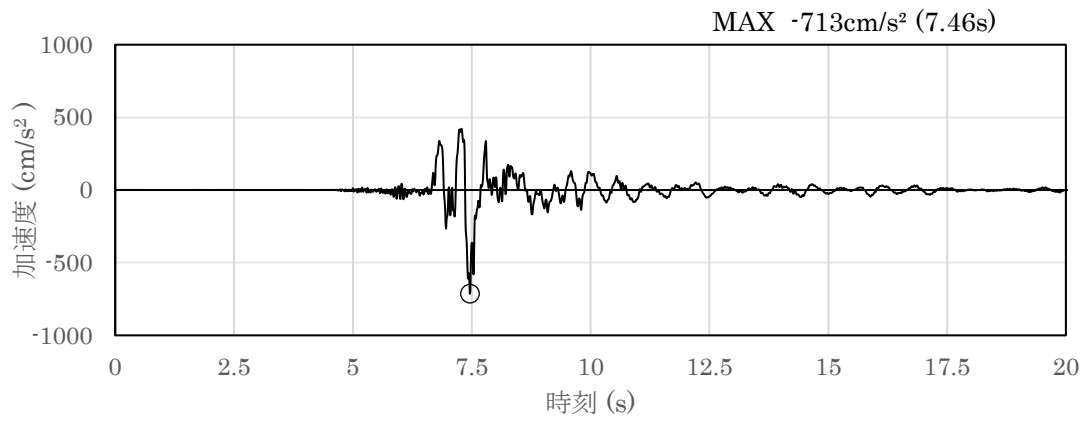


(a) 加速度時刻歴波形

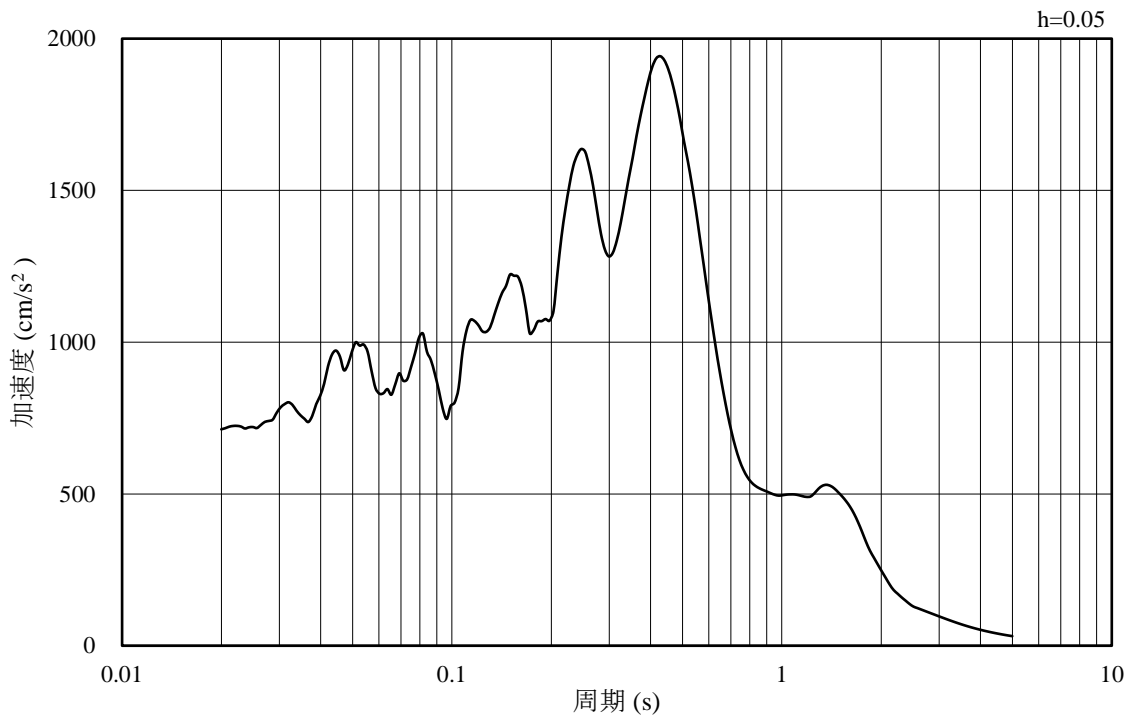


(b) 加速度応答スペクトル

図 3-13 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S s - F 2)

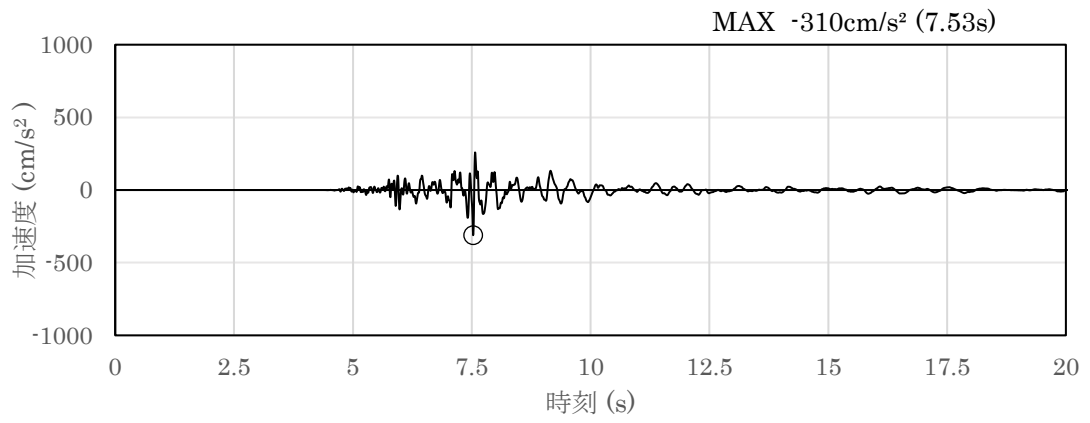


(a) 加速度時刻歴波形

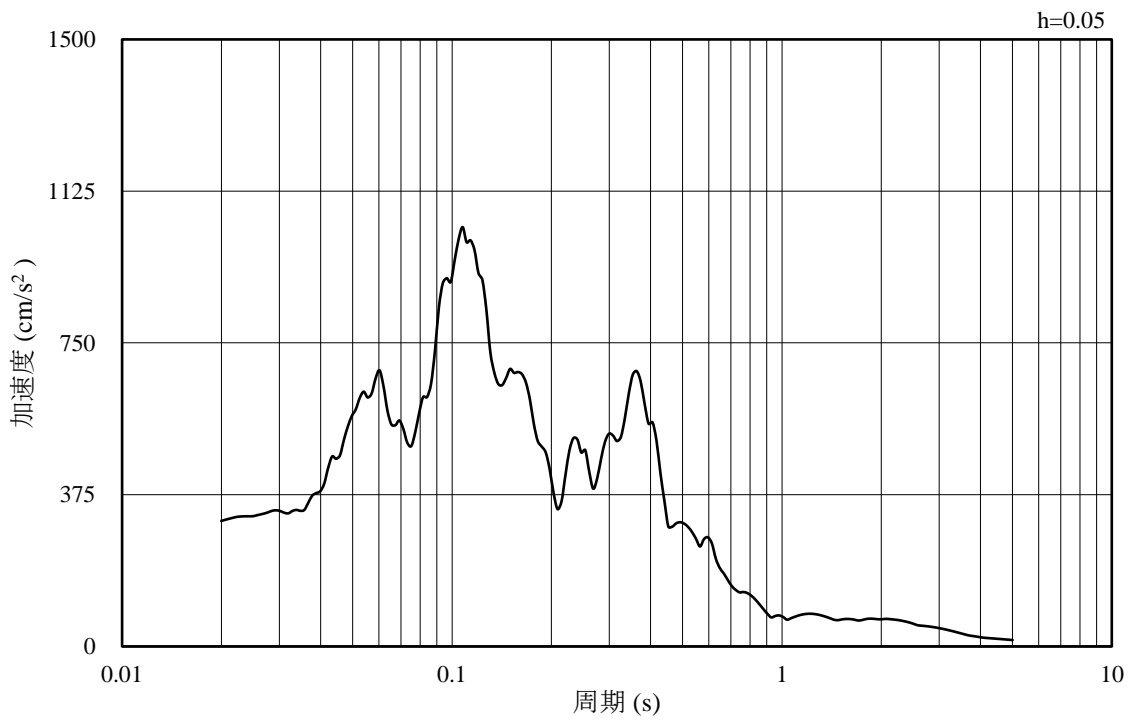


(b) 加速度応答スペクトル

図 3-14 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分：S s - N 1)

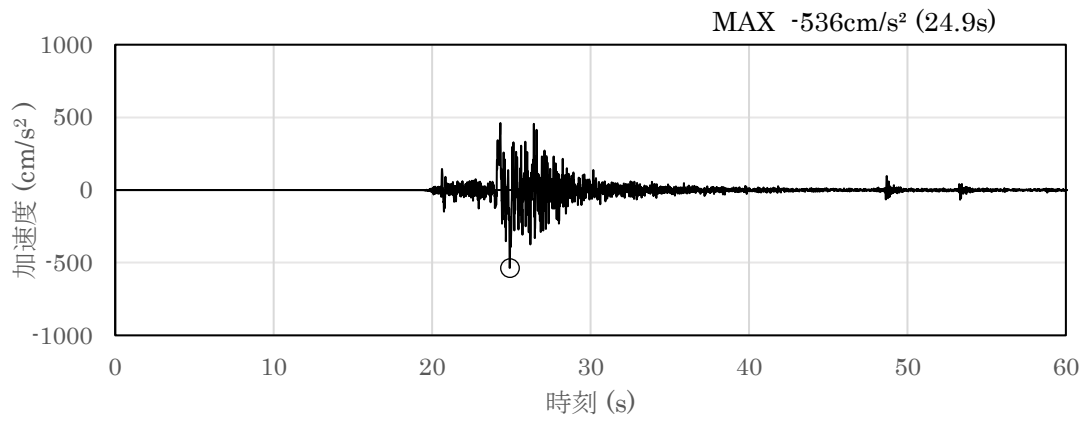


(a) 加速度時刻歴波形

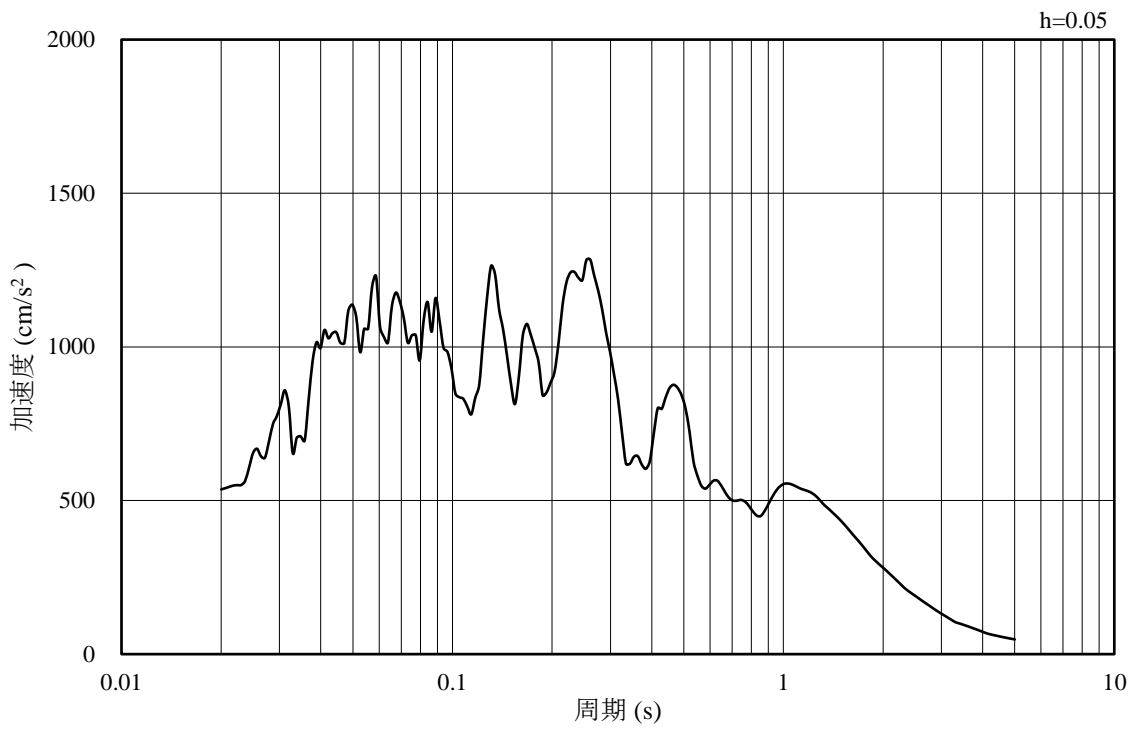


(b) 加速度応答スペクトル

図 3-15 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S s - N 1)

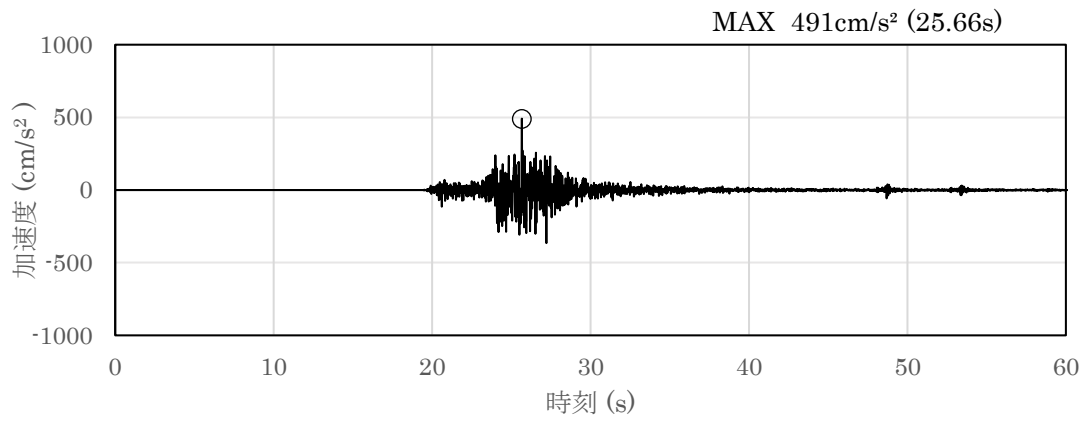


(a) 加速度時刻歴波形

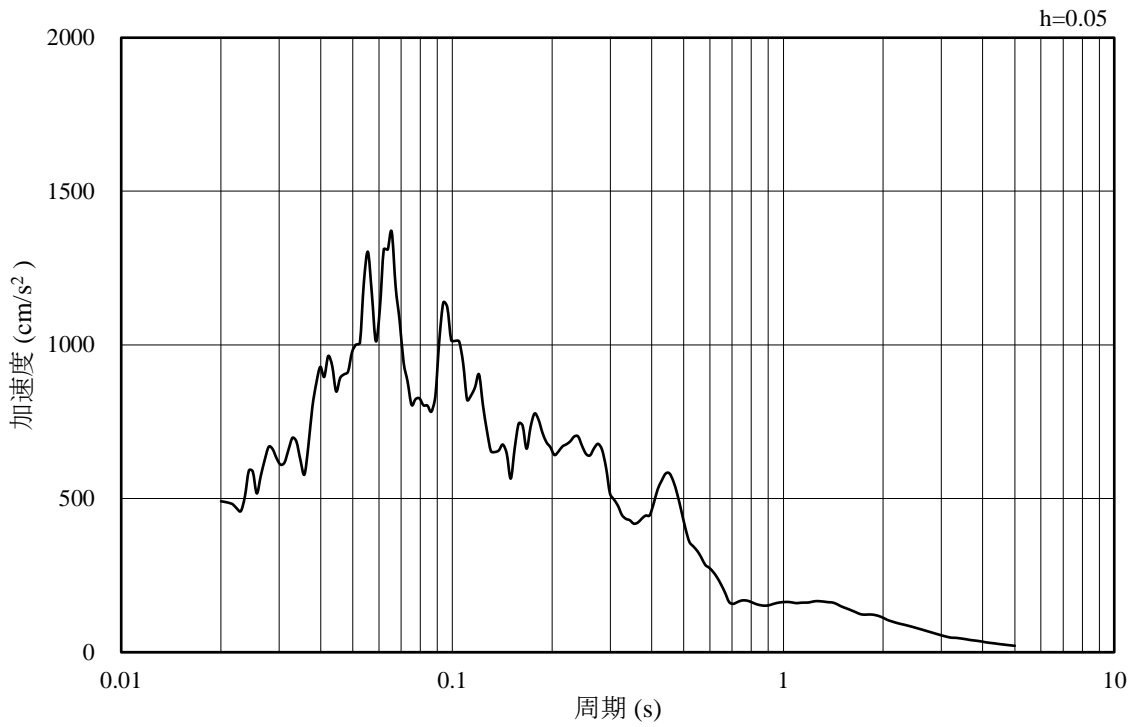


(b) 加速度応答スペクトル

図 3-16 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分 : S s - N 2 ( N S ))



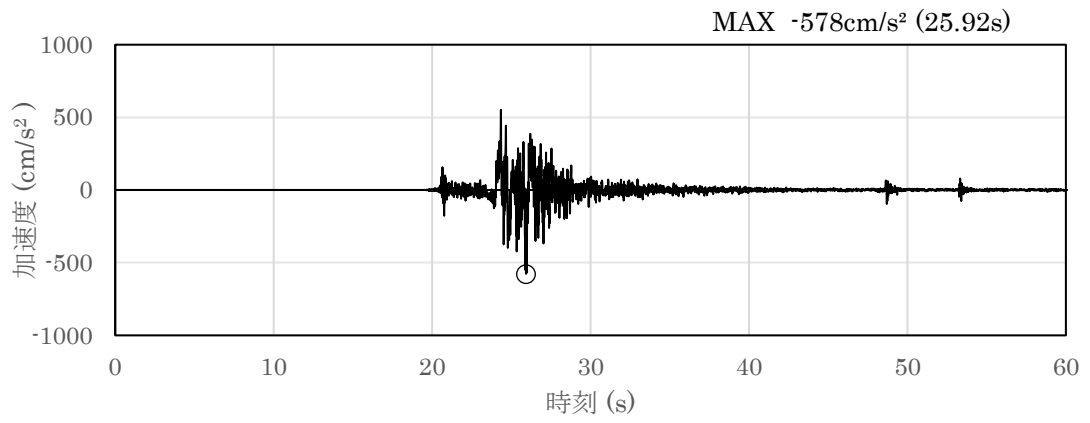
(a) 加速度時刻歴波形



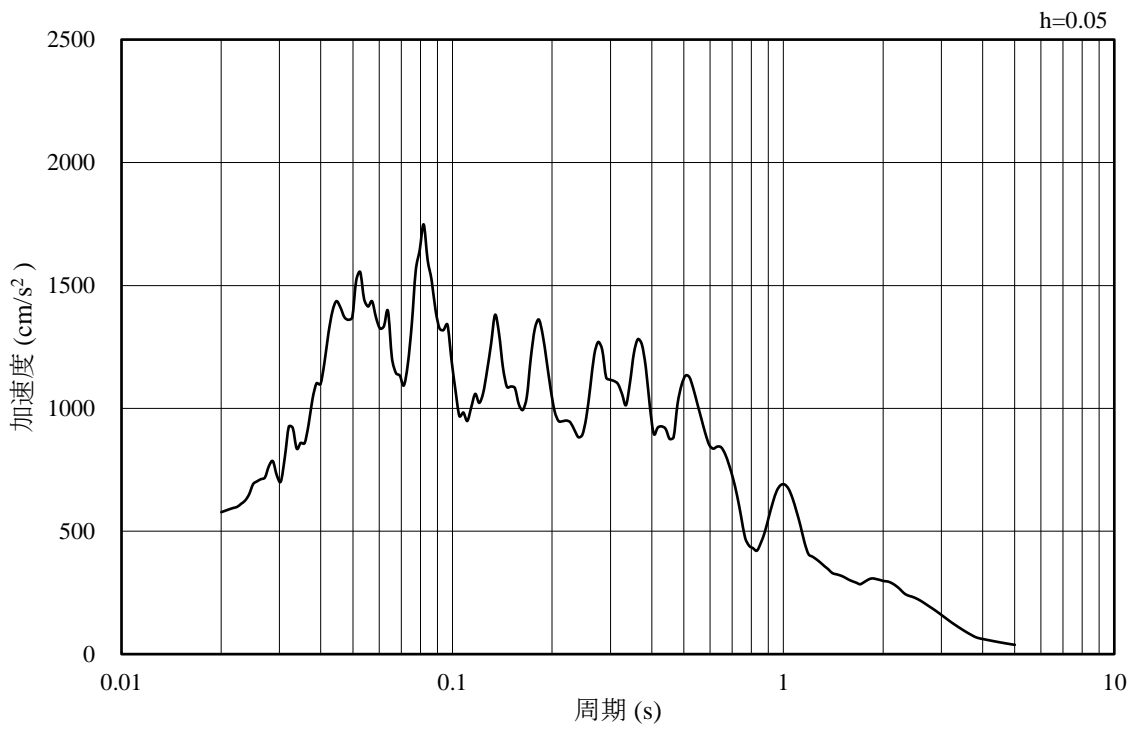
(b) 加速度応答スペクトル

図 3-17 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S s - N 2 (N S))



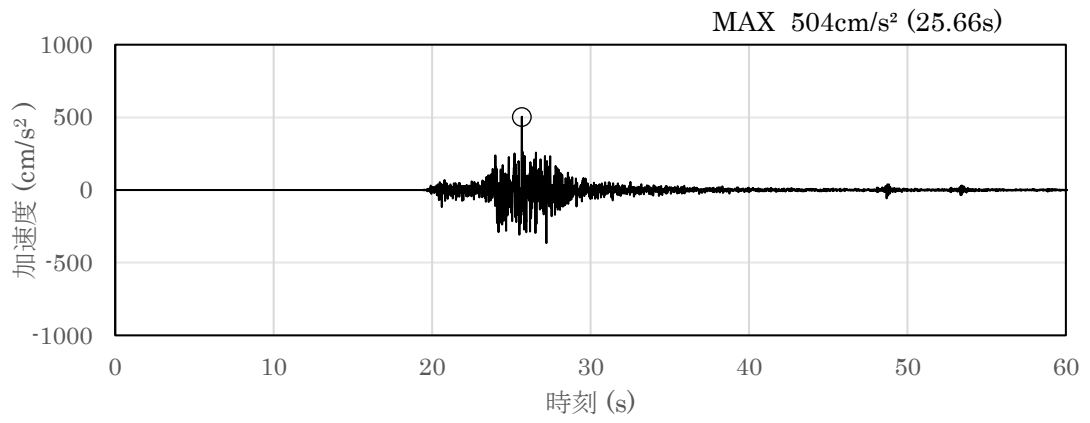


(a) 加速度時刻歴波形

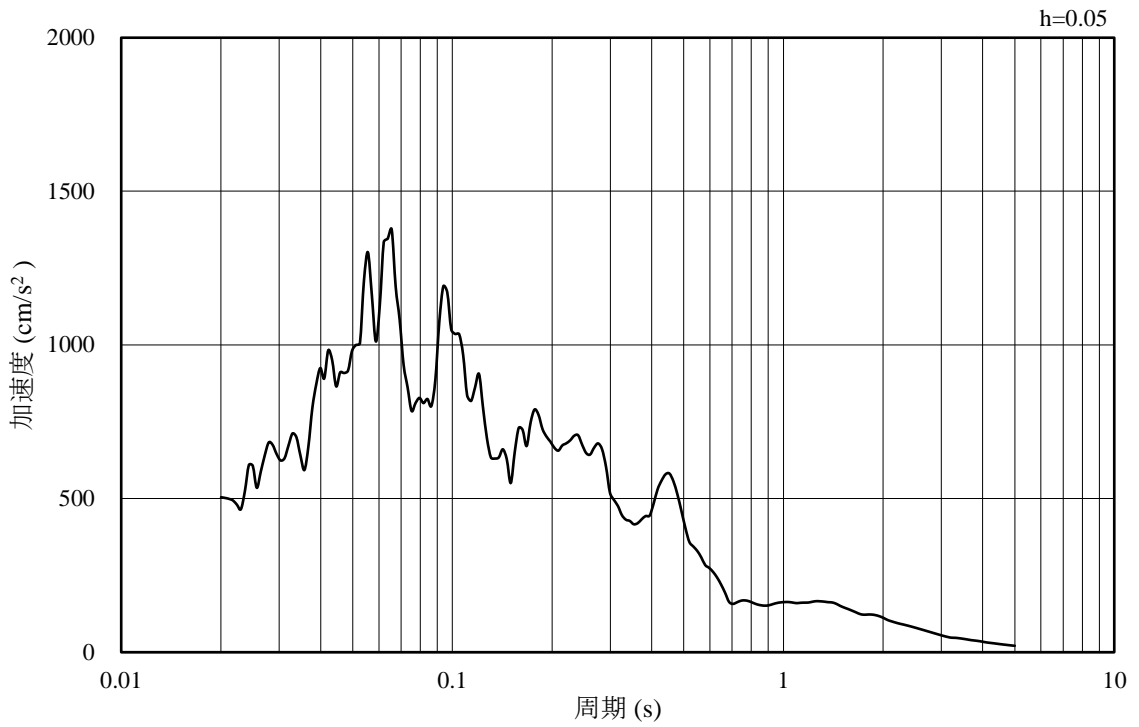


(b) 加速度応答スペクトル

図 3-18 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分：S s - N 2 (E W))

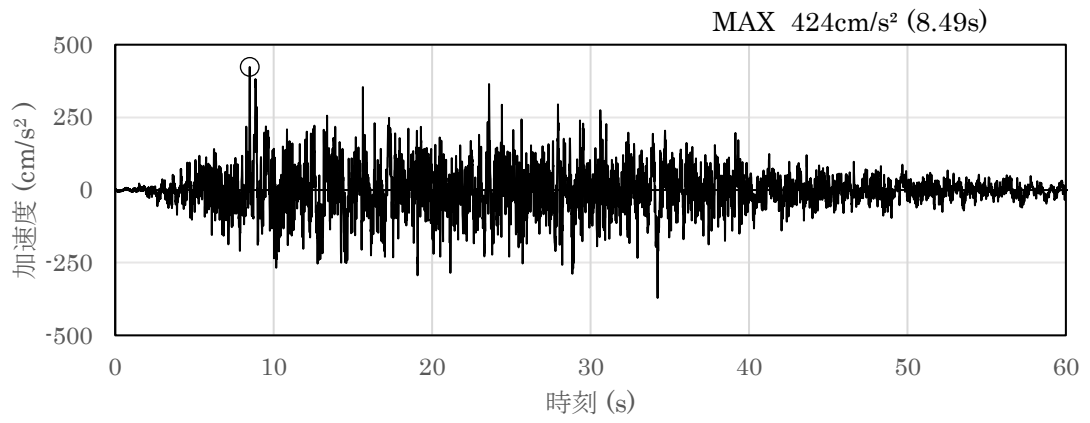


(a) 加速度時刻歴波形

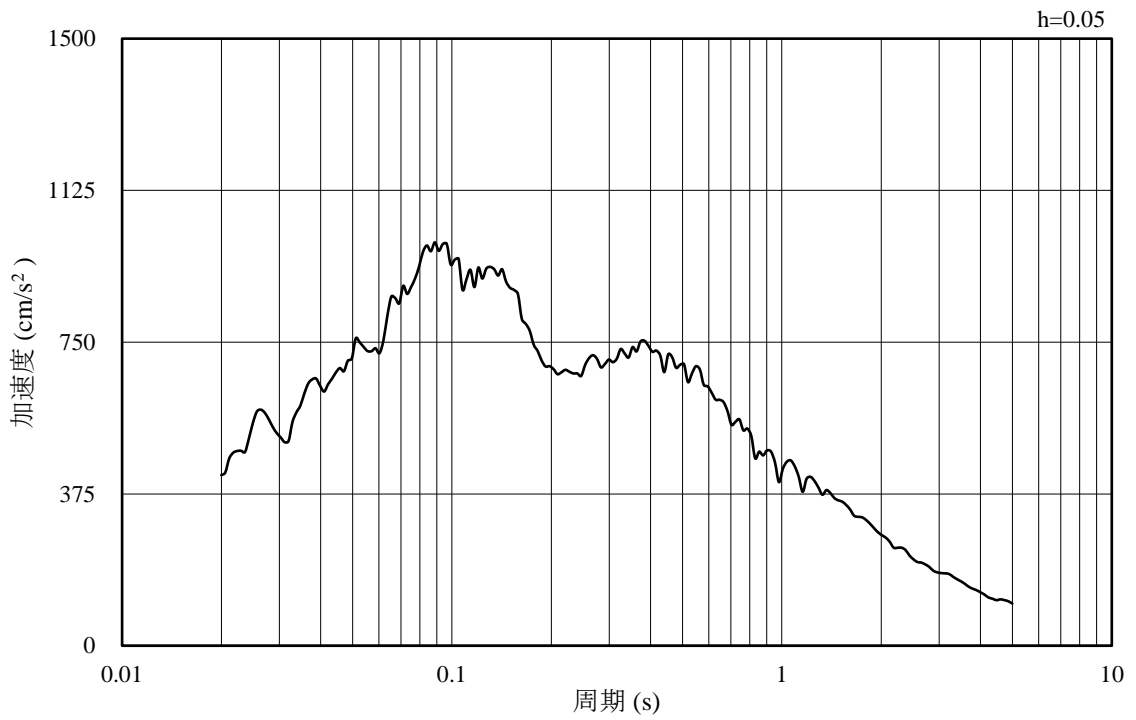


(b) 加速度応答スペクトル

図 3-19 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S s - N 2 (E W) )

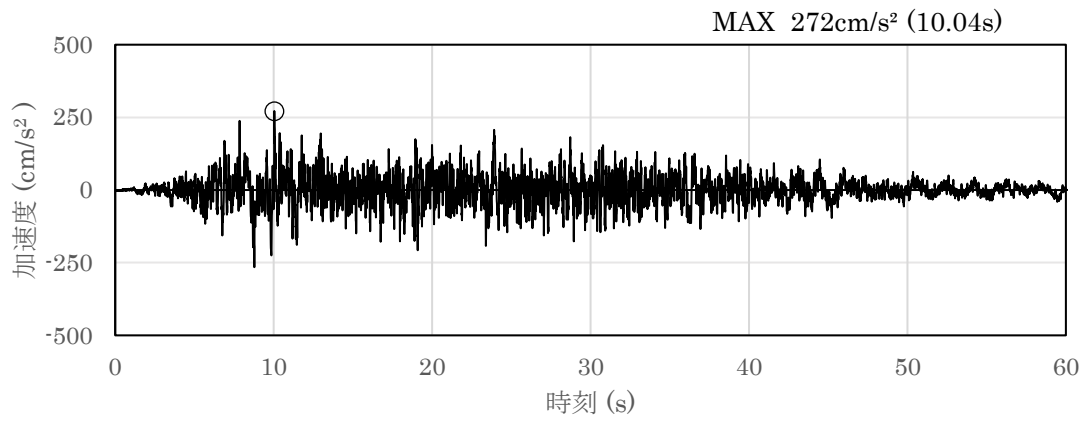


(a) 加速度時刻歴波形

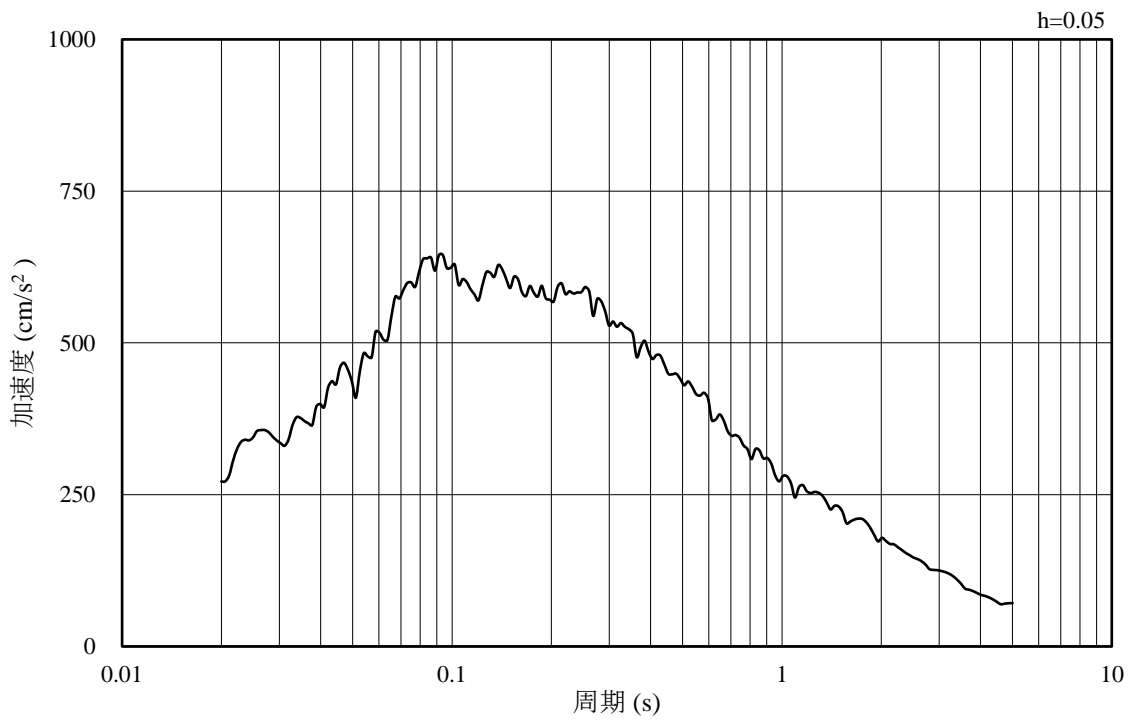


(b) 加速度応答スペクトル

図 3-20 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分：S d - D)



(a) 加速度時刻歴波形



(b) 加速度応答スペクトル

図 3-21 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S d - D)

### 3.5 解析モデル及び諸元

#### 3.5.1 解析モデル

1号機取水槽の地震応答解析モデル図を図3-22に示す。

##### (1) 解析領域

解析領域は、側方境界及び底面境界が構造物の応答に影響しないよう、構造物と側方境界及び底面境界との距離を十分に大きく設定する。

##### (2) 境界条件

解析領域の側方及び底面には、エネルギーの逸散効果を考慮するため、粘性境界を設ける。

##### (3) 構造物のモデル化

鉄筋コンクリート部材は、線形はり要素、非線形はり要素及び平面応力要素でモデル化する。

機器・配管荷重は解析モデルに付加質量として与えることで考慮する。

##### (4) 地盤のモデル化

岩盤は線形の平面ひずみ要素でモデル化する。また、埋戻土は、地盤の非線形性をマルチスプリング要素で考慮した平面ひずみ要素でモデル化する。

##### (5) 隣接構造物のモデル化

南北断面の解析モデル範囲において隣接構造物となるタービン建物は、等価剛性として線形の平面ひずみ要素としてモデル化する。また、防波壁（多重鋼管杭式擁壁）は、線形はり要素でモデル化する。

##### (6) MMRのモデル化

MMRは線形の平面ひずみ要素でモデル化する。

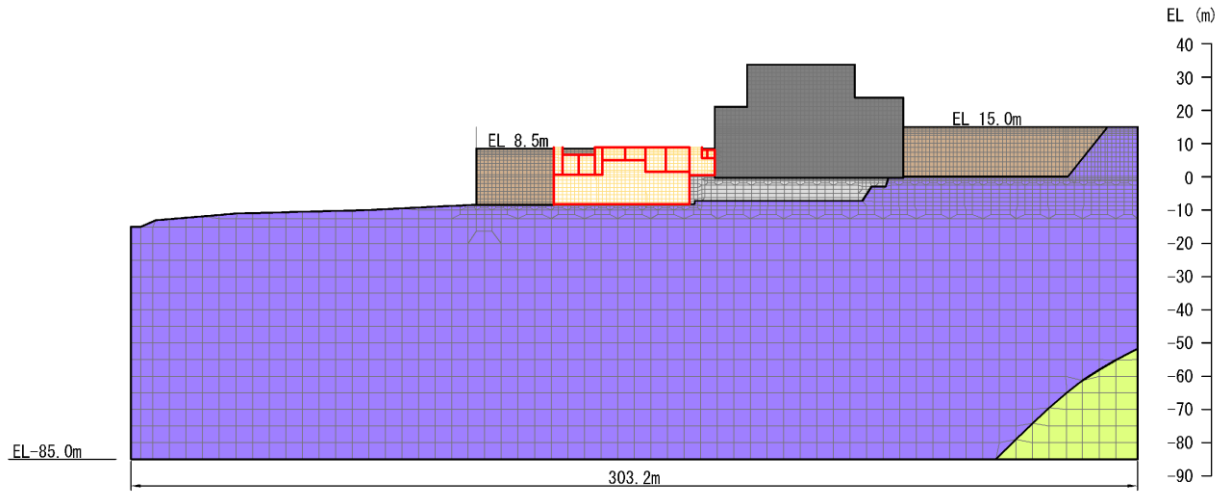
##### (7) ジョイント要素の設定

地震時の「地盤と構造物」、「構造物とMMR」及び「地盤とMMR」の接合面における接触、剥離及びすべりを考慮するため、これらの接合面にジョイント要素を設定する。

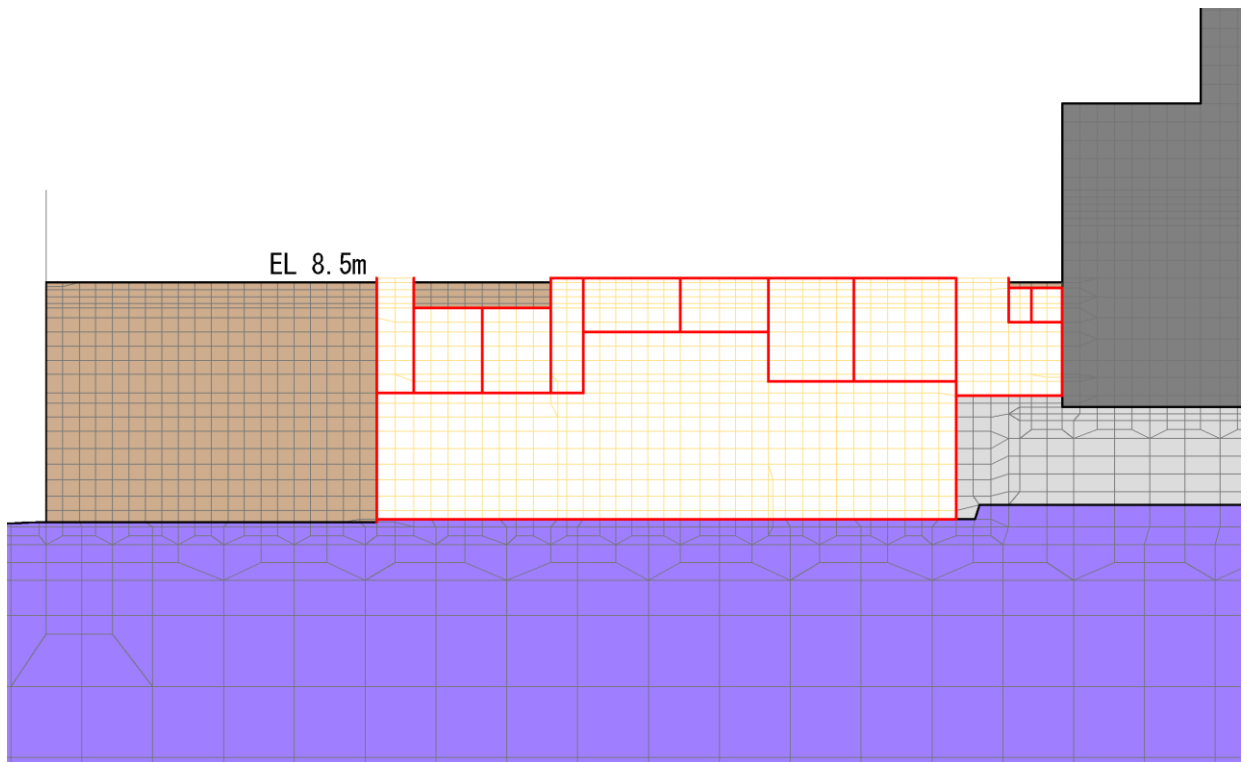
##### (8) 水位条件

1号機取水槽の内水位は、EL 0.58mとする。

- : 岩盤 (第③速度層)
  - : 岩盤 (第④速度層)
  - : 隣接構造物
- : 埋戻土
  - : MMR
  - : 構造物 (妻壁)
- : 評価対象構造物



(全体図)



(拡大図)

図 3-22 1号機取水槽 地震応答解析モデル図 (南北断面)

### 3.5.2 使用材料及び材料の物性値

構造物の使用材料を表 3-5 に、材料の物性値を表 3-6 に示す。

表 3-5 使用材料

材料		仕様
構造物	コンクリート	設計基準強度 20.6N/mm <sup>2</sup>
	鉄筋	SD345
MMR		設計基準強度 18.0N/mm <sup>2</sup>

表 3-6 材料の物性値

材料	ヤング係数 (N/mm <sup>2</sup> )	単位体積重量 (kN/m <sup>3</sup> )	ポアソン比
構造物 (鉄筋コンクリート 構造物)	2.33×10 <sup>4</sup>	24.0* <sup>1</sup>	0.2
MMR	2.20×10 <sup>4</sup>	22.6* <sup>2</sup>	

注記\*1：鉄筋コンクリートの単位体積重量を示す。

\*2：無筋コンクリートの単位体積重量を示す。

### 3.5.3 地盤の物性値

地盤については、VI-2-1-3「地盤の支持性能に係る基本方針」にて設定している物性値を用いる。

#### 3.5.4 地下水位

設計地下水位は，VI-2-1-3「地盤の支持性能に係る基本方針」に従い設定する。  
設計地下水位の一覧を表3-7に示す。

表 3-7 設計地下水位の一覧

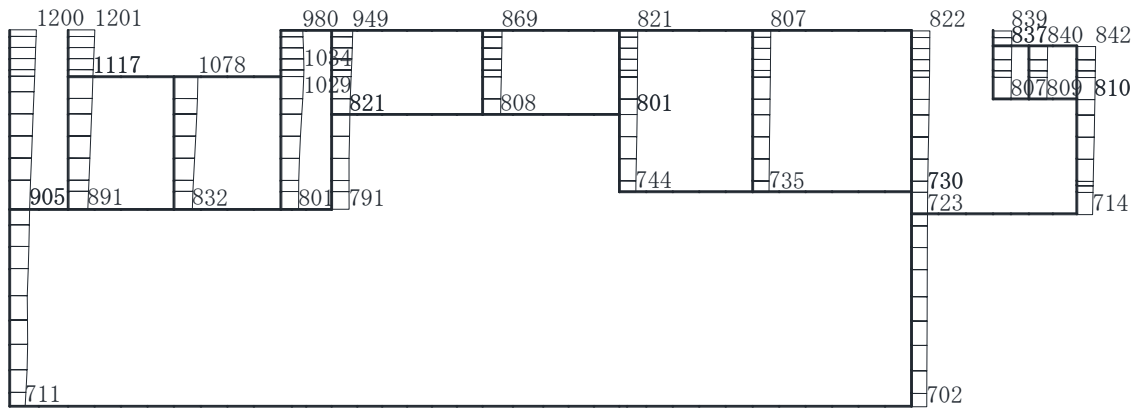
施設名称	解析断面	設計地下水位 (EL m)
1号機取水槽	南北断面	3.0



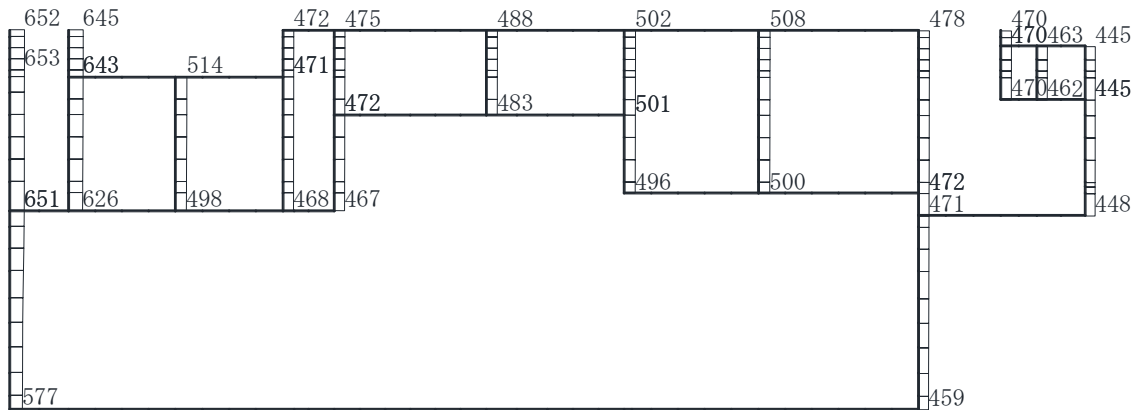
#### 4. 解析結果

##### 4.1 南北断面の解析結果

1号機取水槽流路縮小工に対する応答加速度、北側壁及び中床版の耐震評価のために用いる応答加速度として、解析ケース①（基本ケース）について、すべての基準地震動  $S_s$  に対する最大加速度分布図を図 4-1～図 4-12 に示す。また、解析ケース①において、北側壁の照査値が最大となる地震動に対しての解析ケース②及び③の最大応答加速度分布図を図 4-13～図 4-14 に示す。解析ケース①において、中床版の照査値が最大となる地震動に対しての解析ケース②及び③の最大加速度分布図を図 4-15～図 4-16 に示す。これらに加え、解析ケース①の弾性設計用地震動  $S_d$  に対する最大応答加速度分布図を図 4-17 に示す。解析ケース④及び⑤については追而とする。



(a)  $S_s - D(++)$  水平

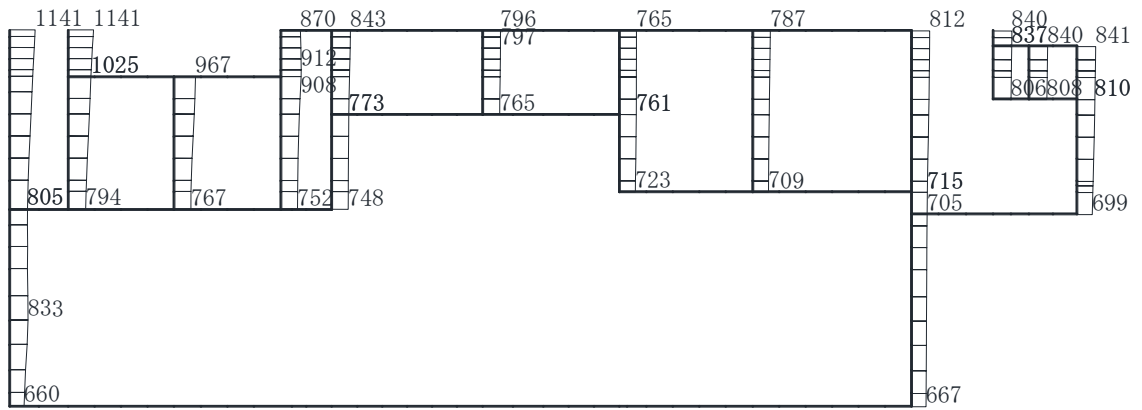


(b)  $S_s - D(++)$  鉛直

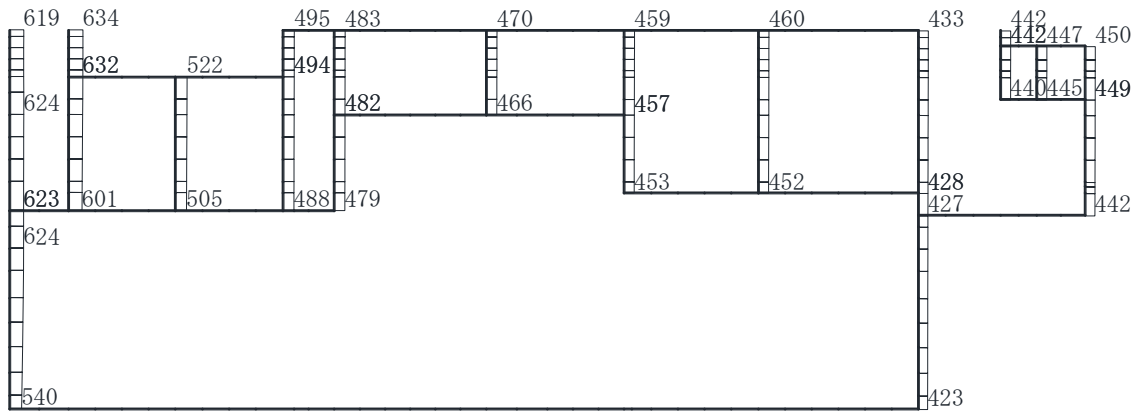
構造スケール 0 2(m)

応答値スケール 0 1500( $cm/s^2$ )

図 4-1 最大応答加速度分布図(1/17) (解析ケース①)



(a)  $S_s - D(-+)$  水平

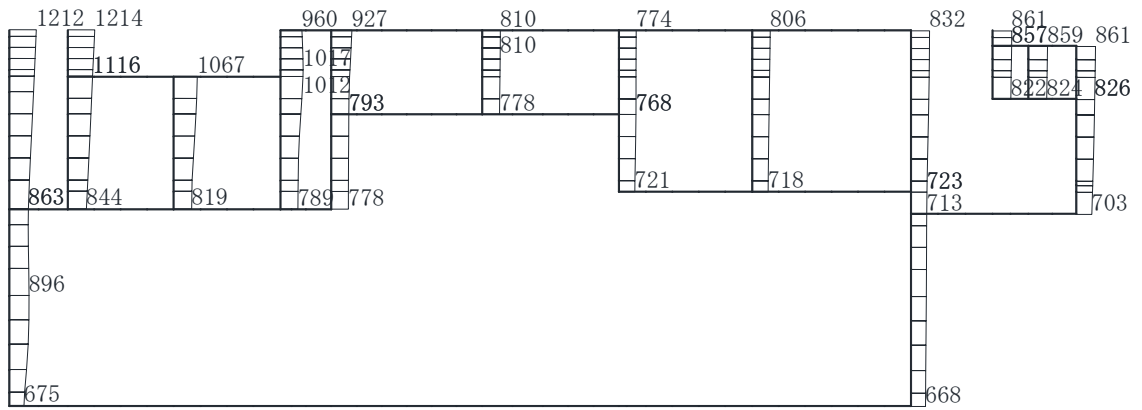


(b)  $S_s - D(-+)$  鉛直

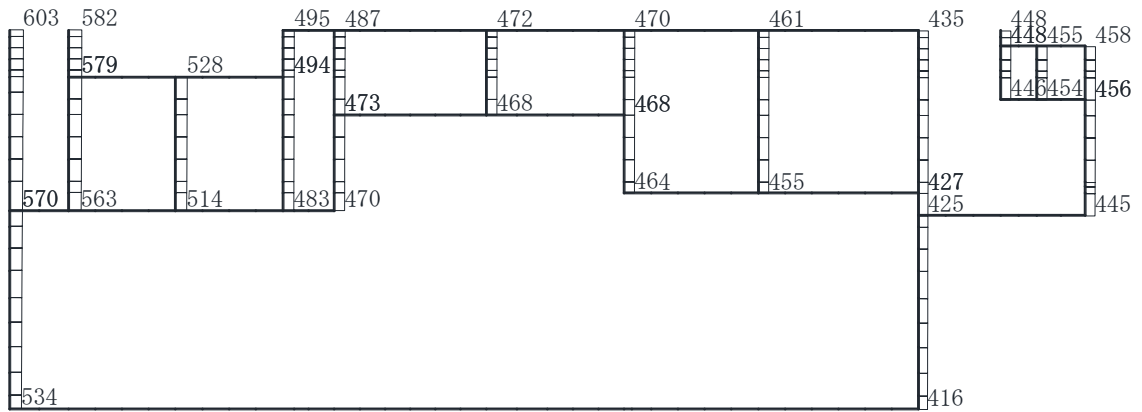
構造スケール 0 2(m)

応答値スケール 0 1500 (cm/s<sup>2</sup>)

図 4-2 最大応答加速度分布図 (2/17) (解析ケース①)



(a) S s - D (+ -) 水平

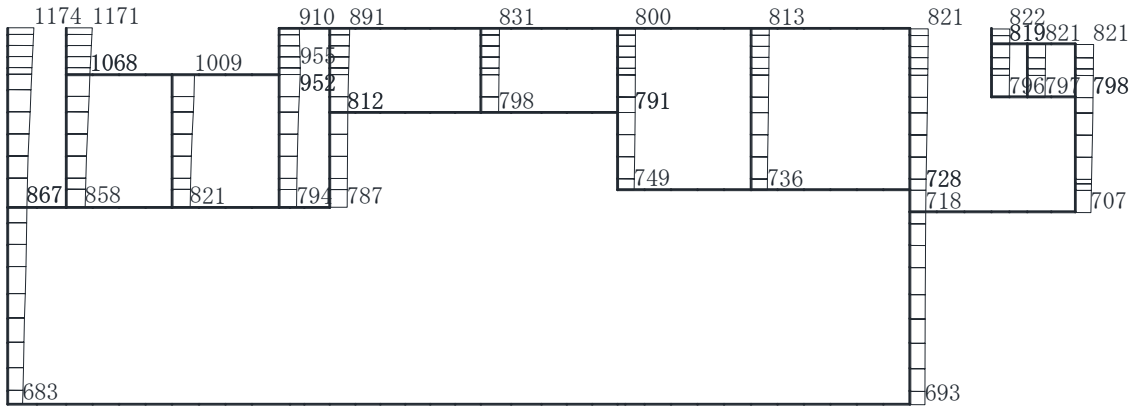


(b) S s - D (+ -) 鉛直

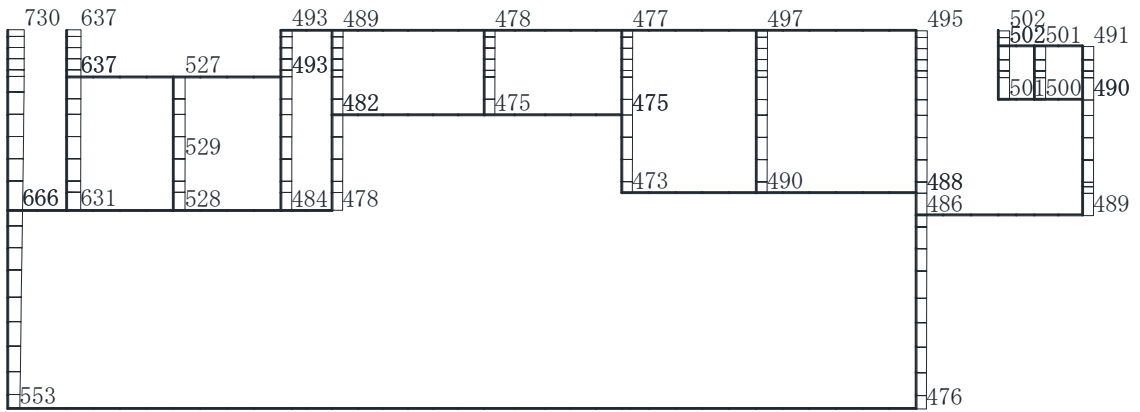
構造スケール 0 2(m)

応答値スケール 0 1500 (cm/s<sup>2</sup>)

図 4-3 最大応答加速度分布図 (3/17) (解析ケース①)



(a)  $S_s - D$  (--) 水平

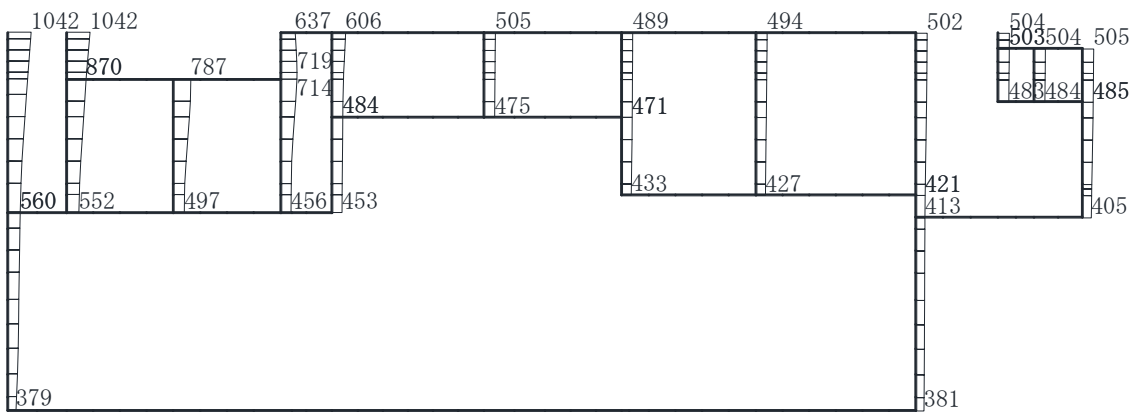


(b)  $S_s - D$  (--) 鉛直

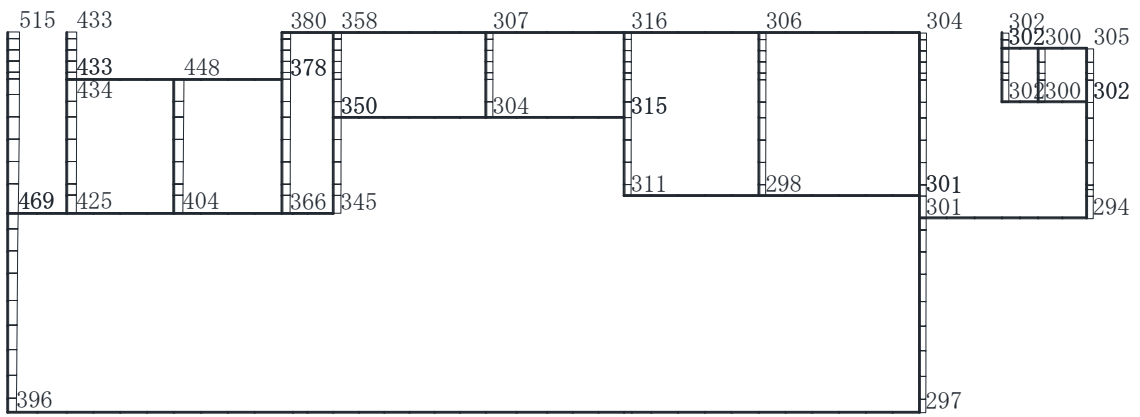
構造スケール 0 2(m)

応答値スケール 0 1500 (cm/s<sup>2</sup>)

図 4-4 最大応答加速度分布図(4/17) (解析ケース①)



(a) S s - F 1 (++) 水平

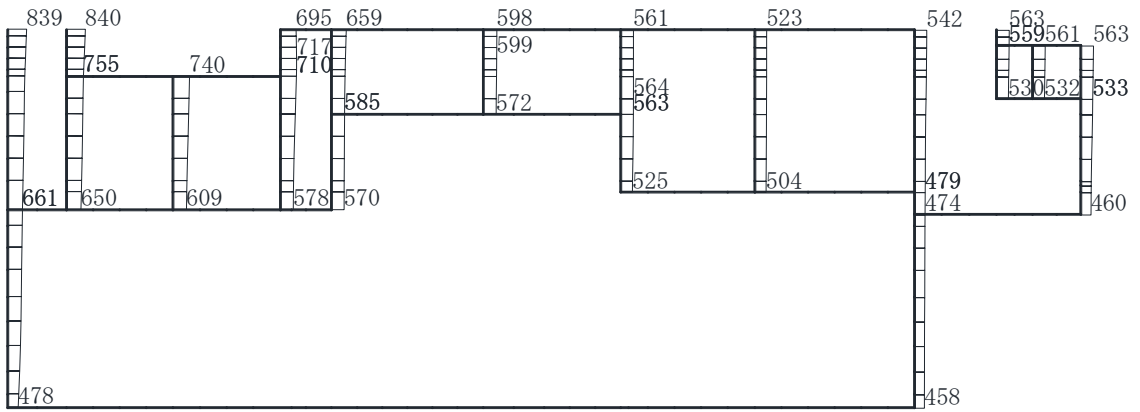


(b) S s - F 1 (++) 鉛直

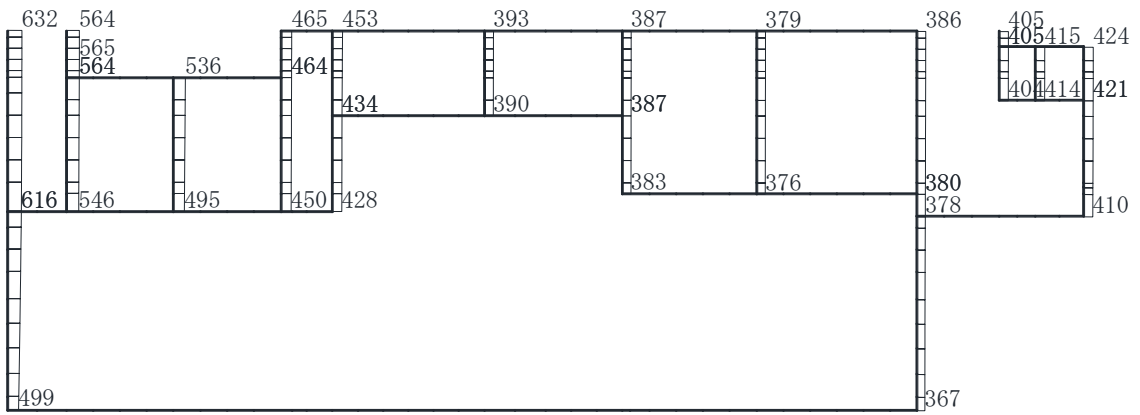
構造スケール 0 2(m)

応答値スケール 0 1500(cm/s<sup>2</sup>)

図 4-5 最大応答加速度分布図(5/17) (解析ケース①)



(a)  $S_s - F_2 (++)$  水平

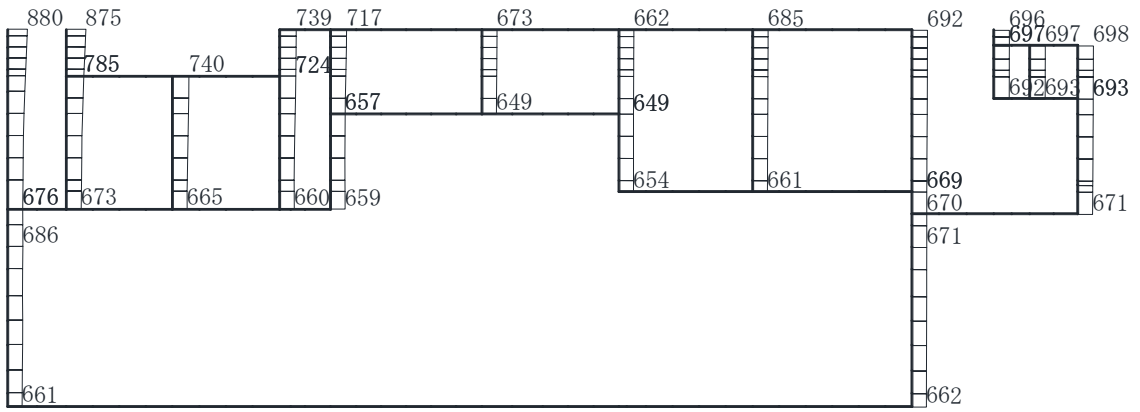


(b)  $S_s - F_2 (++)$  鉛直

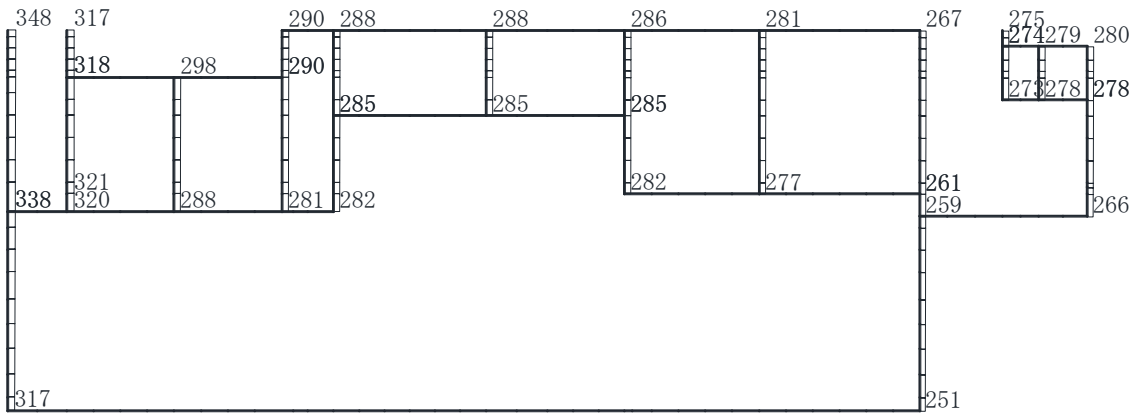
構造スケール 0 2(m)

応答値スケール 0 1500(cm/s<sup>2</sup>)

図 4-6 最大応答加速度分布図(6/17) (解析ケース①)



(a) S s - N 1 (++) 水平



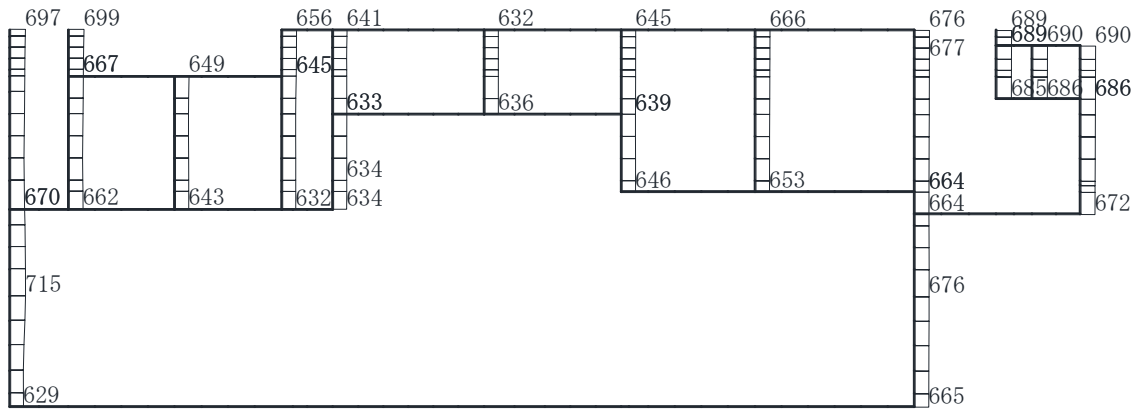
(b) S s - N 1 (++) 鉛直

構造スケール 0 2(m)

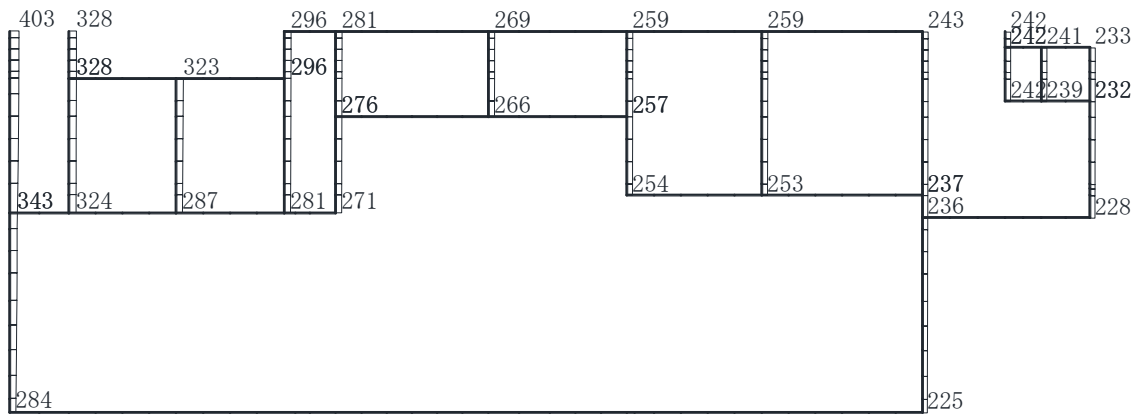
応答値スケール 0 1500(cm/s<sup>2</sup>)

図 4-7 最大応答加速度分布図(7/17) (解析ケース①)





(a) S s - N 1 ( - + ) 水平

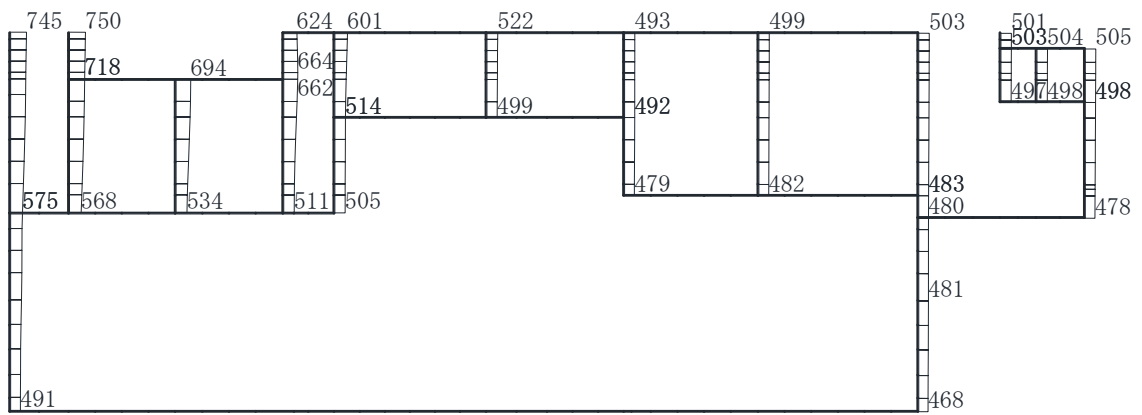


(b) S s - N 1 ( - + ) 鉛直

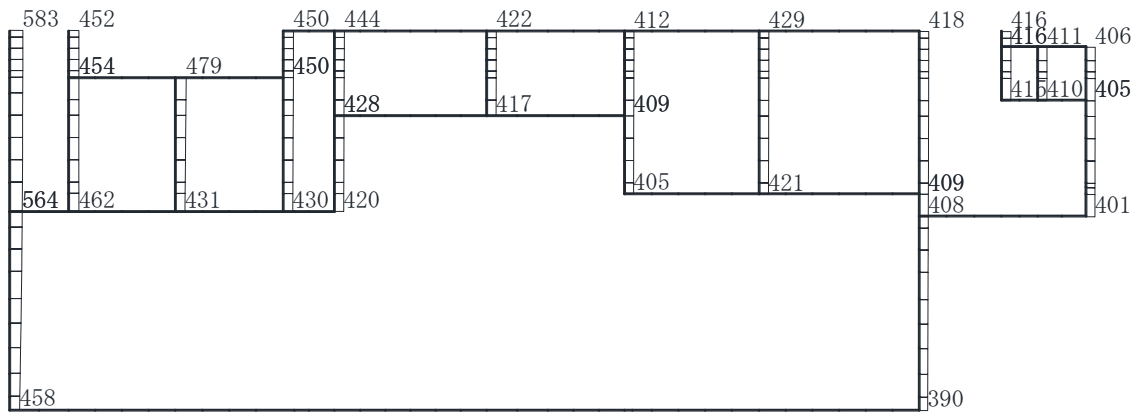
構造スケール 0 2(m)

応答値スケール 0 1500 (cm/s²)

図 4-8 最大応答加速度分布図 (8/17) (解析ケース①)



(a)  $S_s - N2 (NS) (++)$  水平

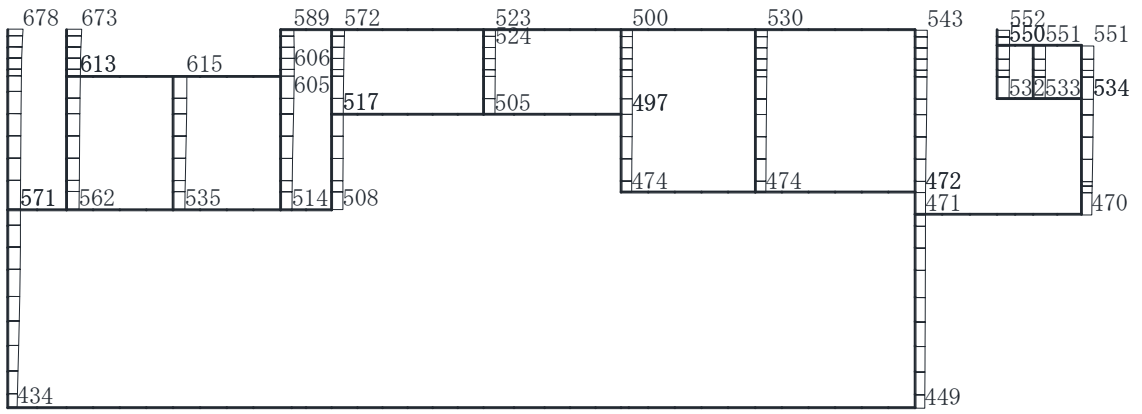


(b)  $S_s - N2 (NS) (++)$  鉛直

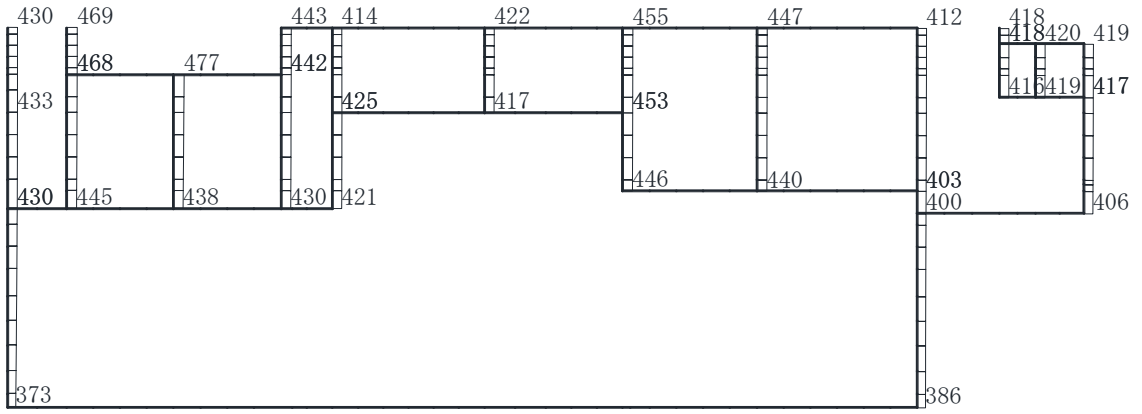
構造スケール 0 2(m)

応答値スケール 0 1500(cm/s<sup>2</sup>)

図 4-9 最大応答加速度分布図(9/17) (解析ケース①)



(a)  $S_s - N2 (NS) (-+)$  水平

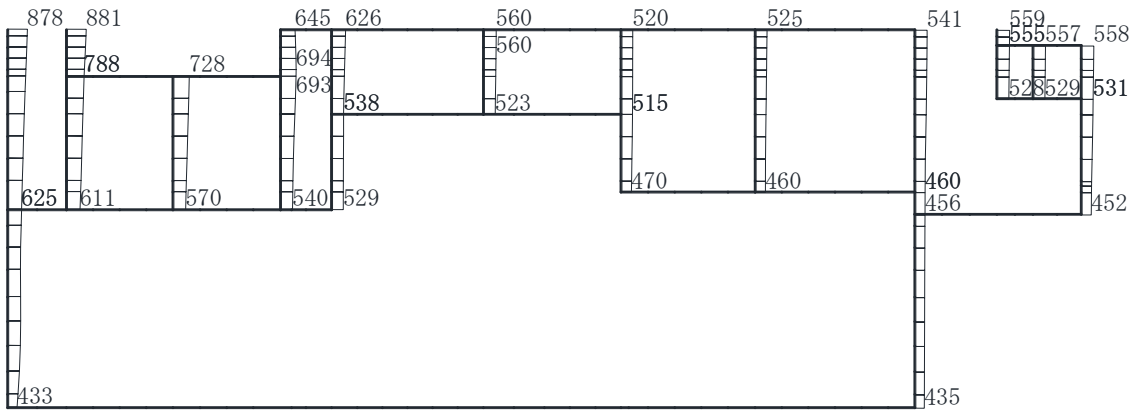


(b)  $S_s - N2 (NS) (-+)$  鉛直

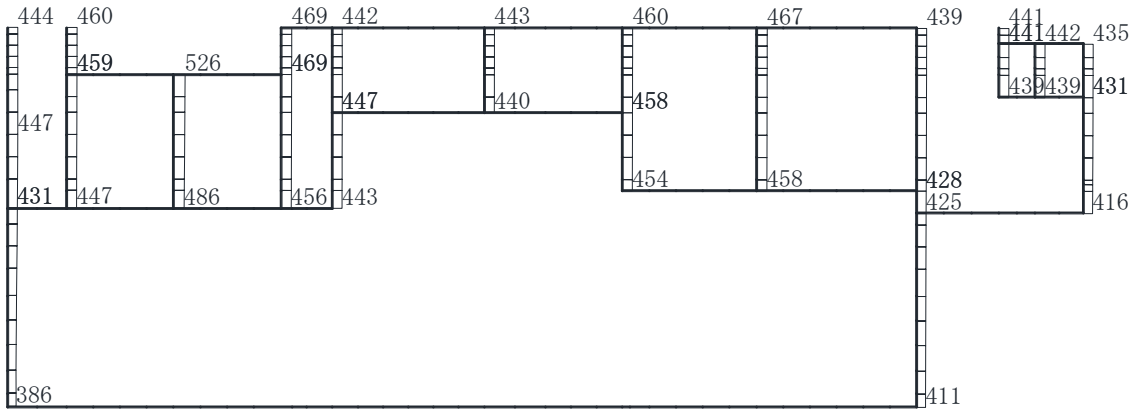
構造スケール 0 2(m)

応答値スケール 0 1500(cm/s<sup>2</sup>)

図 4-10 最大応答加速度分布図(10/17) (解析ケース①)



(a)  $S_s - N2 (EW) (++)$  水平

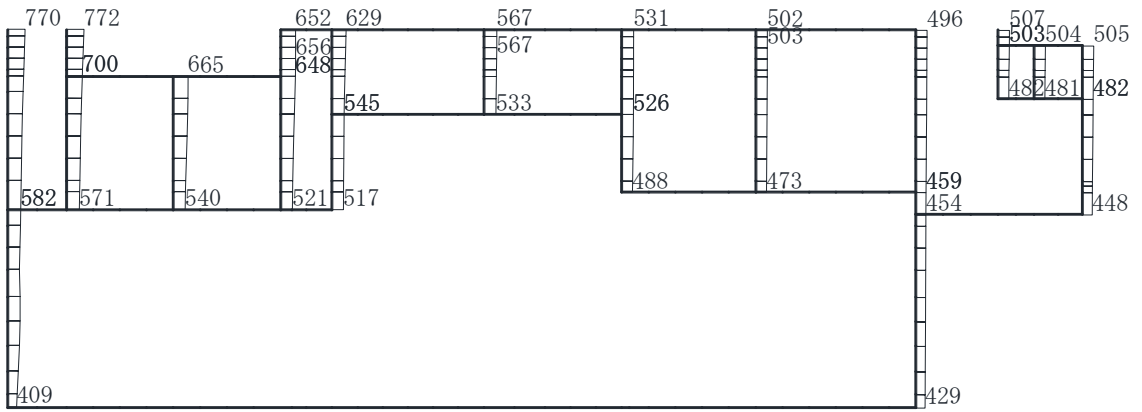


(b)  $S_s - N2 (EW) (++)$  鉛直

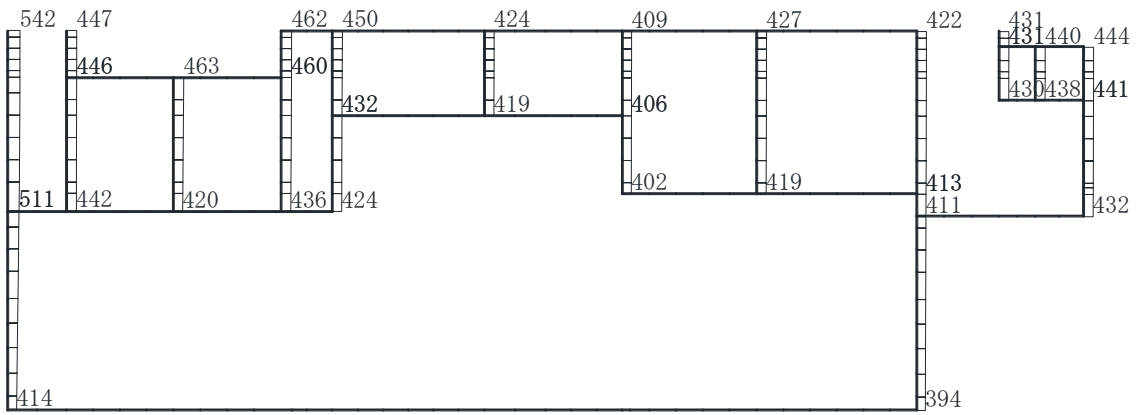
構造スケール 0 2(m)

応答値スケール 0 1500(cm/s<sup>2</sup>)

図 4-11 最大応答加速度分布図(11/17) (解析ケース①)



(a)  $S_s - N2 (EW) (-+)$  水平

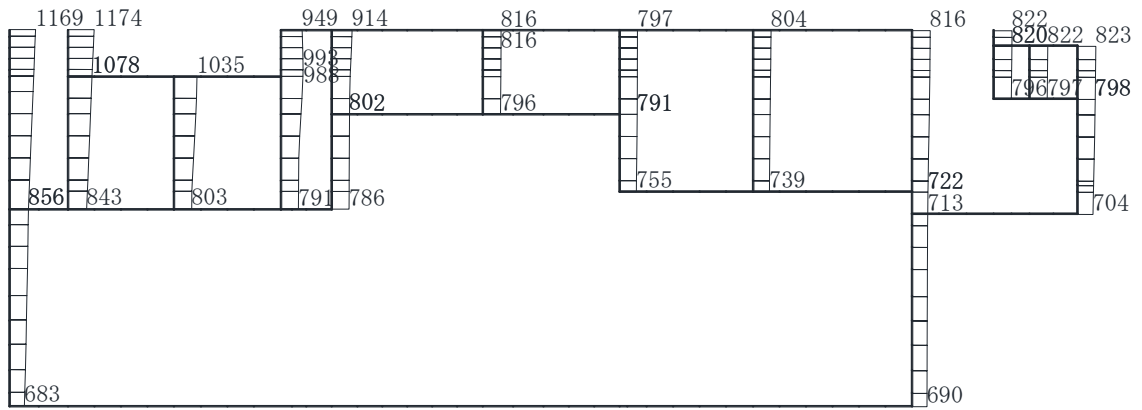


(b)  $S_s - N2 (EW) (-+)$  鉛直

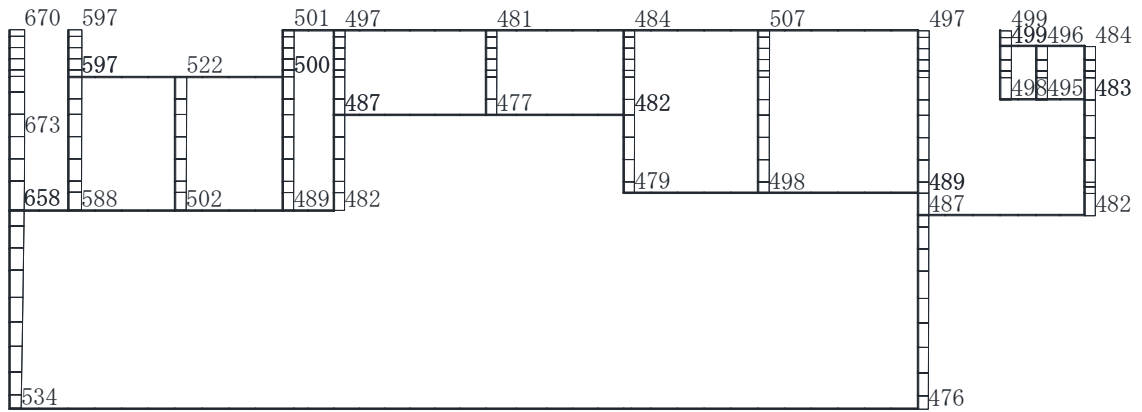
構造スケール 0 2(m)

応答値スケール 0 1500(cm/s<sup>2</sup>)

図 4-12 最大応答加速度分布図(12/17) (解析ケース①)



(a) S s - D (--) 水平

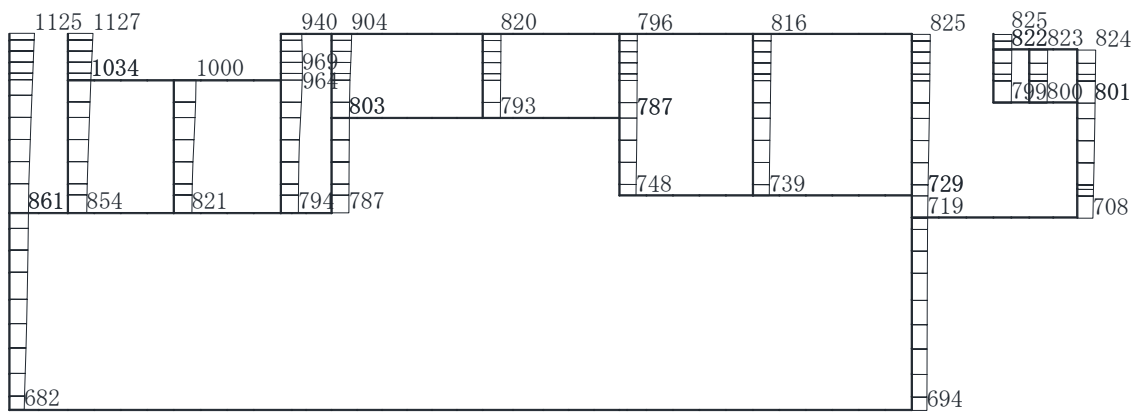


(b) S s - D (--) 鉛直

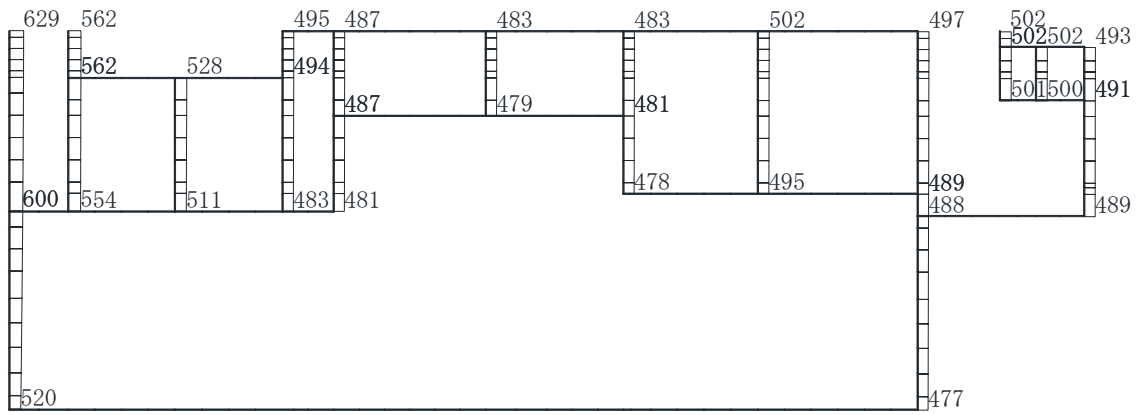
構造スケール 0 2(m)

応答値スケール 0 1500 (cm/s<sup>2</sup>)

図 4-13 最大応答加速度分布図 (13/17) (解析ケース②)



(a) S s - D ( -- ) 水平

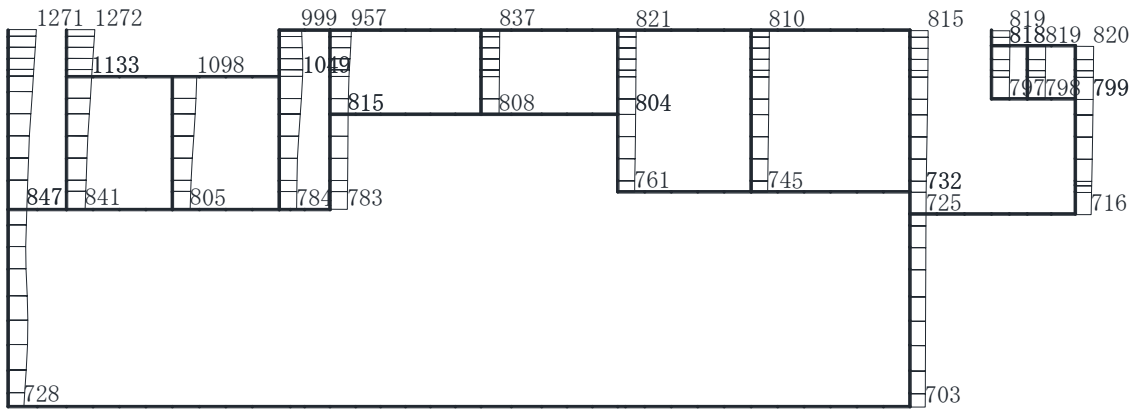


(b) S s - D ( -- ) 鉛直

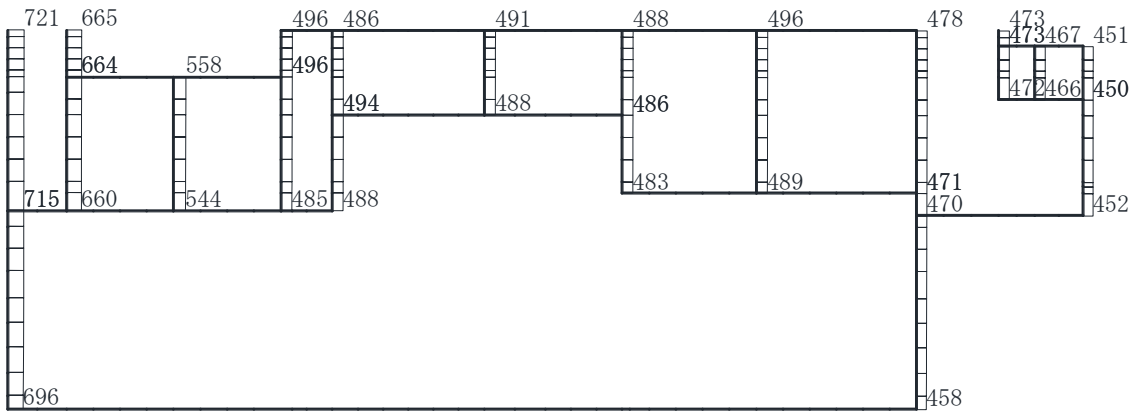
構造スケール 0 2(m)

応答値スケール 0 1500(cm/s<sup>2</sup>)

図 4-14 最大応答加速度分布図(14/17) (解析ケース③)



(a) S s - D (++) 水平



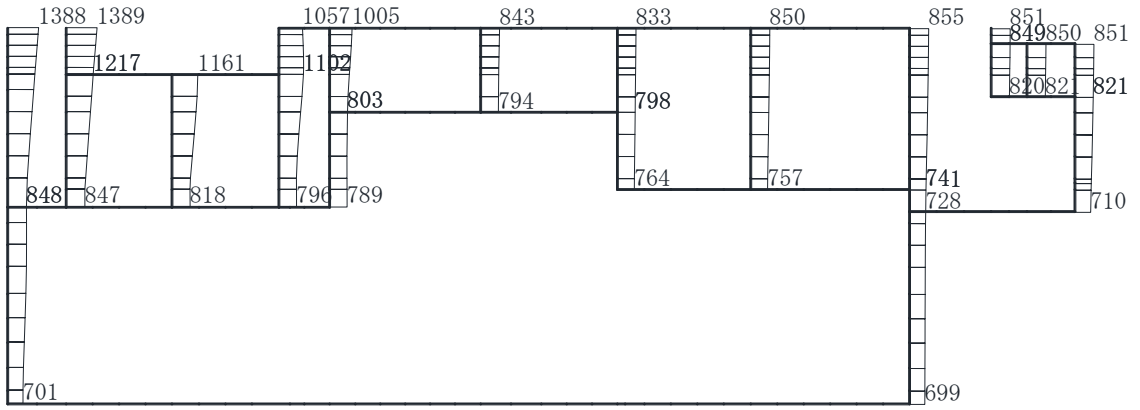
(b) S s - D (++) 鉛直

構造スケール 0 2(m)

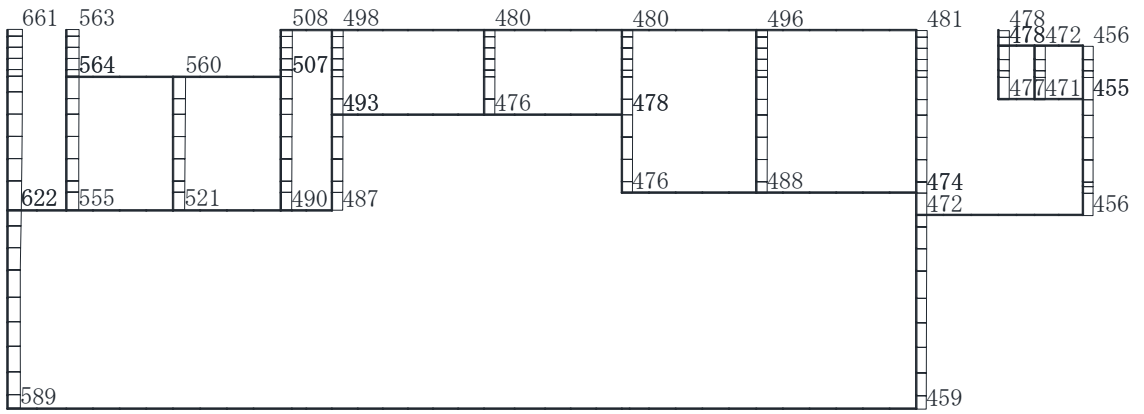
応答値スケール 0 1500(cm/s<sup>2</sup>)

図 4-15 最大応答加速度分布図(15/17) (解析ケース②)





(a) S s - D (++) 水平

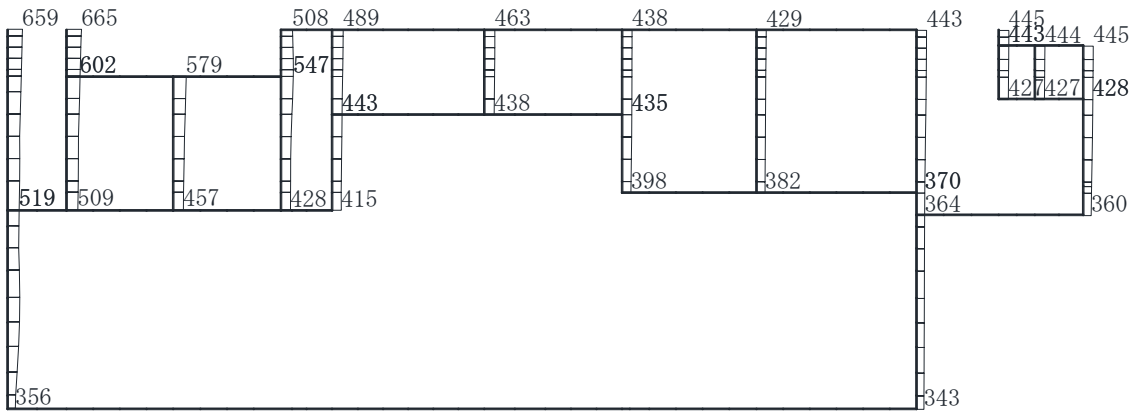


(b) S s - D (++) 鉛直

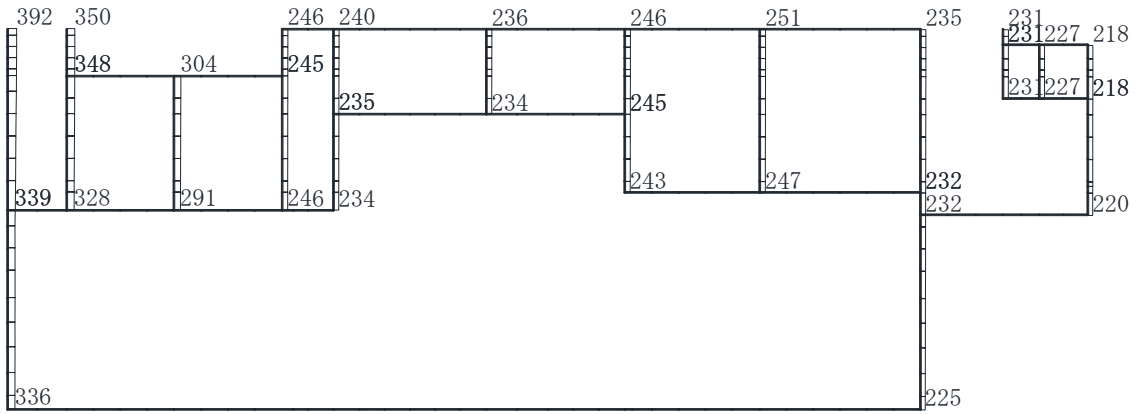
構造スケール 0 2(m)

応答値スケール 0 1500 (cm/s<sup>2</sup>)

図 4-16 最大応答加速度分布図(16/17) (解析ケース③)



(a) S d - D ( + + ) 水平



(b) S d - D ( + + ) 水平

構造スケール 0 2(m)

応答値スケール 0 1500 (cm/s<sup>2</sup>)

図 4-17 最大応答加速度分布図(17/17) (解析ケース①)